

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 日本語教育映画：基礎編 教師用マニュアル ユニット2(第6巻～第10巻)

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2021-02-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15084/00003124">https://doi.org/10.15084/00003124</a>  |

16mmフィルム／ビデオテープ

日本語教育映画 基礎編  
教師用マニュアル

ユニット 2 (第6巻～第10巻)

国立国語研究所

## 前 書 き

この「日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル」は、「日本語教育映画基礎編」を効果的に利用するための教授者用手引書として作成しました。

「日本語教育映画基礎編」は、日本語を母語としない学習者が日本語を学ぶための初級用映像教材で、1巻5分から8分の作品30巻で構成されています。各巻、独立した学習内容と主題を持っているので、日本語の授業で教科書と併用する副教材として個別的に利用することができますが、また基礎的日本語能力を実践的に身につけるための教材として、系列的に順次利用することも可能です。

このマニュアルは、映画各巻の学習内容と主題について簡潔に解説し、ユニット（映画5巻分）単位でまとめました。日本語教育映画を効果的に利用するための一助になれば幸いです。

昭和59年11月

国立国語研究所長

野元菊雄

## 日本語教育映画 基礎編 学習項目表

| 題名及び副題                                   | 主要学習項目   | その他の学習項目   |
|--|--|--|
| 1 これは かえるです<br>—「こそあど」+「～は～です」—          | 1. 「こそあど」の用法<br>2. ～は～です   | 1. ～をください  |
| 2 さいふは どこにありますか<br>—「こそあど」+「～がある」—       | 1. 「こそあど」の復習<br>2. ～があります<br>3. 「は」と「が」の違いの導入                                    | 1. ～は？<br>2. ～です<br>3. います   |
| 3 やすくないです、たかいです<br>—形容詞—                 | 1. 形容詞の意味・用法   | 1. よ、ね<br>2. 青い色の  |
| 4 きりんは どこにいますか<br>—「いる」「ある」—             | 1. います、あります<br>2. だれか/だれも、何か/何も  | 1. 慣用表現<br>よろしくお願ひします etc.   |
| 5 なにを しましたか<br>—動詞—                      | 1. 基本的な動詞の意味・用法<br>2. ～ます/ました<br>3. 対象語(目的語)、時、場所の言い方                            | 1. ～時、～時間  |
| 6 しずかな こうえんで<br>—形容動詞—                   | 1. 形容動詞の意味・用法  | 1. 慣用表現<br>もっといかがですか etc.<br>2. ね  |
| 7 さあ、かぞえましょう<br>—助数詞—                    | 1. 助数詞   |  |
| 8 どちらが すきですか<br>—比較・程度の表現—               | 1. 比較・程度の表現<br>2. ～は～がじょうず/へたです<br>～は～がすき/きらいです<br>3. ～は～ができます<br>4. ～は～が～       | 1. ～は～がほしい/～たい<br>(cf 18)<br>2. どちら/どれ/どんなど<br>3. こちら/こっち  |
| 9 かまくらを あるきます<br>—移動の表現—                 | 1. 移動に関わる動詞<br>2. ～ませんか } (cf 13)<br>～ましょう                                       |  |
| 10 もみじが とても きれいでした<br>—です、でした、でしょう—      | 1. ～です/でした/でしょう<br>2. ～だ/だった(待遇表現)<br>3. ～に行く/来る (cf 14)                         | 1. ～のです(cf 12)<br>2. ごろ、ぐらい<br>3. ～月、～日、期間<br>4. 時の表現  |
| 11 きょうは あめが ふっています<br>—して、している、していた—     | 1. 「～て」形の導入<br>2. ～ている、～ていた  | 1. 数・量の言い方 5分、三人etc.<br>2. 二人称の〇〇さん<br>3. ～とも、～でも<br>4. 前後関係 まず、それからetc.   |
| 12 そうじは してありますか<br>—してある、しておく、<br>してしまう— | 1. ～てある<br>2. ～ておく (cf 21)<br>3. ～てしまう   | 1. ～のです<br>2. 会話の始動・展開・終結の語<br>3. あいさつなどの慣用表現<br>いってらっしゃい etc.   |
| 13 おみまいに いきませんか<br>—依頼・勧誘の表現—            | 1. ～をください<br>～て<br>～てください<br>～てくださいませんか<br>～ませんか } (cf 9)<br>～ましょう }<br>～ないでください | 1. ～てもいい<br>2. ～てはいけない<br>3. ～なくてはいけない<br>～なければいけない<br>4. ～てみる (cf 17)<br>5. 「で」の用法<br>6. ～なんです<br>7. 数・量の言い方<br>8. 発話の起こし(文の接続) |
| 14 なみのおとが きこえてきます<br>—「いく」「くる」—          | 1. 行く/来る<br>2. ～ていく/くる   | 1. 動詞による連体修飾   |
| 15 うつくしいさらに なりました<br>—「なる」「する」—          | 1. 「なる」「する」の意味・用法  |  |

|    | 題名及び副題                               | 主要学習項目  | その他の学習項目  |
|----|--------------------------------------|---|---|
| 16 | みずうみのえを かいたことが ありますか<br>—経験・予定の表現—   | 1. することがある<br>2. したことがある<br>3. することにする<br>4. することになる  | 1. ～たり、～たりする  |
| 17 | あのいわまで およげますか<br>—可能の表現—             | 1. 可能動詞<br>することができる<br>2. 可能動詞+ようになる  | 1. ～やすい/にくい/すぎる<br>2. ～といい<br>3. ～ながら<br>4. ～てみる (cf 13)                                  |
| 18 | よみせを みに いきたいです<br>—意志・希望の表現—         | 1. するつもりだ<br>～(よ)うと思っている<br>2. ～たい/たがる<br>ほしい/ほしがる<br>3. する/している/したところだ<br>4. したばかりだ                                      | 1. 材料「で」(～でできている)   |
| 19 | てんきが いいから<br>さんぽをしましょう<br>—原因・理由の表現— | 1. ～から、～ましょう/～ません<br>か/～てください<br>2. ～ので、～<br>3. ～て、～(理由)<br>4. ～らしい<br>～ようだ   | 1. 名詞句化の「の」<br>2. 存在・非存在の「ある」「ない」<br>時間がある etc.<br>3. ～てから～<br>4. ずいぶん、せっかく、<br>すっかり etc. |
| 20 | さくらが きれいだそうです<br>—伝聞・様態の表現—          | 1. ～そうだ (伝聞)<br>2. ～そうだ (様能)<br>3. ～ようだ (推定)<br>～らしい (推定)   | 1. かしら<br>2. たしかに、どうやら、<br>とにかく etc.  |
| 21 | おけいこを みに いっても<br>いいですか<br>—許可・禁止の表現— | 1. ～てもいい/<br>かまわない<br>2. ～なくともいい<br>3. ～てはいけない<br>4. ～なければいけ<br>ない/ならない<br>5. ～なくてはいけない<br>6. ～したほうがいい<br>7. ～するようにしてください | 1. ～する前に、～してから<br>2. ～ておく (cf 12)   |
| 22 | あそこに のばれば<br>うみがみえます<br>—条件の表現1—     | 1. ～と、～<br>2. ～ば、～<br>3. ～たら、～<br>4. ～なら、～  |   |
| 23 | いえが たくさんあるのに<br>とてもしづかです<br>—条件の表現2— | 1. ～ても、～<br>2. ～のに、～<br>3. ～けれども、～<br>4. ～にもかかわらず、～   | 1. ～まま  |
| 24 | おかねを とられました<br>—受身の表現1—              | 1. 受身の表現(他動詞を中心)に   | 1. ～と、～した<br>2. ～(よ)うとする  |
| 25 | あめに ふられて こまりました<br>—受身の表現2—          | 1. 受身の表現(自動詞を中心)に   | 1. ～し、～し、～<br>2. ～たびに   |
| 26 | このきっぷを あげます<br>—やり・もらひの表現1—          | 1. やる/もらう/くれる   | 慣用的表現   |
| 27 | にもつを もって もらいました<br>—やり・もらひの表現2—      | 1. ～てやる/もらう/くれる   | 慣用的表現   |
| 28 | てつだいを させました<br>—使役の表現—               | 1. 使役の表現<br>(～もらう)<br>2. 使役受身の表現  | 慣用的表現   |
| 29 | よく いらっしゃいました<br>—待遇表現1—              | 1. 敬語   | 慣用的表現   |
| 30 | せんせいを おたずねします<br>—待遇表現2—             | 1. 敬語   | 慣用的表現   |

# 目次

## 日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル

## ユニット2

|   |    |
|---|----|
| 前書き   | 1  |
| 学習項目表                                       | 2  |
| この本の構成と使い方                                  | 5  |
| <br>  |    |
| <b>第6巻 しづかな こうえん</b> — 形容動詞 —               |    |
| 目的・構成                                       | 7  |
| 学習項目  | 8  |
| 形容動詞「ね」陳述の副詞                                |    |
| 使用にあたって                                     | 12 |
| シナリオに沿って                                    | 13 |
| <br>  |    |
| <b>第7巻 さあ、かぞえましょう</b> — 助数詞 —               |    |
| 目的・構成                                       | 21 |
| 学習項目  | 22 |
| 助数詞の種類 助数詞の使い方                              |    |
| シナリオに沿って                                    | 28 |
| <br>  |    |
| <b>第8巻 どちらが すきですか</b> — 比較・程度の表現 —          |    |
| 目的・構成                                       | 33 |
| 学習項目  | 34 |
| 比較・程度の表現 「～は～が～」「こちら、そちら、あちら」               |    |
| 疑問詞の整理 程度を表す副詞                              |    |
| 使用にあたって                                     | 41 |
| シナリオに沿って                                    | 42 |
| <br>  |    |
| <b>第9巻 かまくらを あるきます</b> — 移動の表現 —            |    |
| 目的・構成                                       | 51 |
| 学習項目  | 52 |
| 移動の表現 「見える」「聞こえる」「～ましょう」「～ませんか」             |    |
| 使用にあたって                                     | 55 |
| シナリオに沿って                                    | 58 |
| <br>  |    |
| <b>第10巻 もみじが とても きれいでした</b> — です、でした、でしょう — |    |
| 目的・構成                                       | 65 |
| 学習項目  | 66 |
| 「です」「でした」「でしょう」「です」と「だ」「～のです」               |    |
| 「(目的語)+に+行く／来る」「ごろ」「ぐらい」月・日の言い方 ほか          |    |
| シナリオに沿って                                    | 71 |
| <br>  |    |
| 映画およびこの本の作成関係者                              | 80 |

# この本の構成と使い方

映像教材には、中心学習項目のほかに、さまざまな内容がふくまれています。授業に使用するにあたっては、制作者が意図してとり入れた要素もまたそうでない要素も、できる限り細かい検討を行ってから利用計画を立てるのが望ましいことです。事前に知っておくべき内容を教授者が確認し、自分のものにするために、このマニュアルでは、どのような種類の情報が教材のどの部分に出現するか、そしてその情報をどう理解し指導に役立てたらよいか、ということを中心に編集しています。

以下、このマニュアルの構成を追って、編集方針と使い方を述べていきます。

## ■目的・構成——映画の全体像、内容の把握

各巻の最初のページに、その巻の主要学習項目、ストーリーの流れ、学習項目の出現のようすを表にして示しました。各巻のこのページだけに目を通していくことによって、映画全体の内容把握、また授業計画の作成の参考になります。なお、表の「カウント」と記した空欄は、テープカウンターの数値を書き入れるためのものです。

## ■学習項目——文法・文型の整理

この映画は、各巻ごとに表現文型を中心にまとめてあります。主要学習項目で、その巻で取り上げた文法・文型の基本的な意味・用法を、日本語教育の観点から解説しました。その巻を授業で扱うにあたって、文法知識の再確認のために利用できます。

## ■シナリオに沿って——「語彙」「文法」など項目別に配列

ページの上部にシナリオを提示して、その内容に関する情報や解説を同じページ内に示しました。なるべく他の分冊や他のページを参照することなくそのページだけで必要な情報が得られるように配慮しました。そのため、同じような解説が重複して現れることをあえて許容しています。

全体を「語彙・表現」「文法」「留意点」「生活・文化」の四つの項目にわけてその順に配列し、個々の事項をきがし出しやすくしました。また、ひとつの項目、たとえば「文法」だけをページを追って通読することにより、短時間でその項目についての全体像をつかむということもできます。

以下、四つの項目について述べます。

## ■語彙・表現

教授者として知っておくべき語句の意味用法と、学習者に与える説明というふたつの観点から、語彙を取り上げました。おもにシナリオに現れた用例について簡

単な語釈を与え、また類似語・関連語のあいだでの意味・用法の異同についても扱っています。対語は「↔」を、その他の関連語は「→」を付して示しました。さらに、映像には出現するが、せりふには現れない語を「映像⇒」という印をつけてまとめました。慣用表現などについても取り上げました。

### ■文法

せりふとして出現したそれぞれの文は、場面や文脈など多くの要素との関連で形式や意味内容が成り立っています。ここでは「学習項目」で述べた文法知識を前提とし、シナリオの文脈を参照しながら、主要学習項目やその他の文法的な事項がどう運用されているか、解説してあります。

### ■留意点

「文と文、発話と発話のつながり」といった、談話レベルでシナリオをとらえ、その規則や注意すべき点を解説しました。また日本のコミュニケーションのしかたに関する注意など、文法だけに着目していては見すごしがちなものも取り上げ、さらに談話関係に限らず授業にあたって注意しておいたほうがよいことがあれば言及しました。

### ■生活・文化

日本文化や日本事情に関する知識は、日本で生活したり日本人と接するときに役立つものと考えられます。また、練習の題材として、あるいは学習動機を高めるための素材として教室内で取り上げる必要があります。ここでは生活・文化についてなるべく具体的に説明を加えました。

#### ■ 使用にあたって

以上のほか、巻によってはこの欄を設け、「効果的な使い方」、「練習帳について」の各内容を取り上げています。このうち「練習帳について」は、このマニュアルとは別に刊行している「日本語教育映画 基礎編 練習帳」を授業や自習で使うにあたっての注意点と使い方を述べたものです。また、「トピック」という標題で、おもに生活・文化情報などについて補足説明をした巻もあります。海外の教室などで、特に日本事情の具体的データが不足するようなときに利用できると思います。

#### ――注 意――

このマニュアルは、映画にふくまれる各種情報についての客観資料を提供することを主目的としています。このマニュアルが指導上の教案に代わるものではありませんので、解説した内容のすべてを直接学習者に与えようとすると不適当な場合が生じます。個々の指導目標や学習段階に即して重要度を吟味したうえで、利用できる情報を取り上げるようにしてください。

第6巻

# しずかな こうえんで

— 形容動詞 —

## 目的・構成

### 1 目的

形容詞の意味・用法の理解に引き続き、ここでは基本的な形容動詞をいくつか取り上げ、その意味、またその用法、つまり、述部での言い方（例「静かです」「静かじゃありません」）や修飾する言い方を学習内容としている。

### 2 構成

この映画には静かな公園を散歩する若い男女が登場する。二人の見るもの、聞くもの、感じることなどを通し、形容動詞が対話の形で描かれている。

| 場面 | 文                | ストーリー                           | 学習内容                              | カウント |
|----|------------------|---------------------------------|-----------------------------------|------|
| I  | ①<br>↓<br>②      | 若い男女の二人連れが登場し、商店街を歩く。           | 「にぎやかです」<br>「にぎやかな通り」             |      |
|    | 1<br>③<br>↓<br>⑥ | 二人は公園内を散歩し、美術館の近くまで来る。          | 「静かです」「静かな公園」<br>「立派な建物」          |      |
|    | 2<br>⑦<br>↓<br>⑩ | 自転車に乗った子供が倒れる。二人はそれを助け起こしてやる。   | 「大丈夫」                             |      |
|    | 3<br>⑪<br>↓<br>⑯ | 二人は遊び場で遊んでいる子供たちや、よちよち歩きの子供を見る。 | 「元気です」「元気に遊びます」<br>「好きです」「じょうずです」 |      |
|    | 4<br>⑯<br>↓<br>⑯ | 女はブランコに乗り。二人は隣のブランコの幼児を見る。      | 「じょうずじゃありません」<br>「へたです」           |      |
|    | 5<br>⑯           | 満開の梅の下を歩く。                      | 「きれいです」「きれいな花」ほか                  |      |
|    | 6<br>⑯<br>↓<br>⑯ | 女がベンチの上の忘れ物を見つける。中学生がそれを取りに来る。  | 「変なノート」<br>「大切なノート」               |      |
|    | 7<br>⑯           | 池のこいを見ながら話す。                    | 「いろいろなこい」「きれいな赤いこい」               |      |
|    | 8<br>⑯<br>↓<br>⑯ | ベンチで休憩してジュースを飲む。                | 「もっといかがですか」<br>「もう結構です」           |      |
|    | 9<br>⑯<br>↓<br>⑯ | ゴミ捨てにカンを捨てる親子連れを振り返って見る。        | 「ダメです」                            |      |

## 学習項目

### 1 主要学習項目

#### ① 形容動詞

第3卷「やすくないです、たかいです」では、形容詞の意味・用法について学習したが、この卷では、形容動詞を取り上げ、形容詞の用法との違いに注意させようとしている。一般に日本語教育では、初めに形容詞が導入され、引き続いて形容動詞が導入されることが多いが、この日本語教育映画基礎編でも、形容詞→形容動詞の順である。形容動詞は、日本語教育の中では、呼称において統一のとれていらないもののひとつである。テキストによっては、あるいは教育機関によっては「形容詞」「形容動詞」といわずに、それぞれ「い形容詞」「な形容詞」とするところもある。これは、形容動詞の意味用法が形容詞と共通している点を重視して、実際に教える上でのわかりやすさに立脚した呼称であるということができる。つまり、形容詞（い形容詞）は、名詞を修飾する連体形においては、名詞の前はいつも「い」で終わり、形容動詞（な形容詞）は、「な」で終わることを、学習者に強く印象づけようとした呼び方である。

広い公園

静かな公園

言い切りの形は、それぞれ

公園は広いです。（公園は広い。）

公園は静かです。（公園は静かだ。）

となるが、形容動詞（な形容詞）は、連体形と終止形が異なっていることに注意させたい。この点は「そうだ」「ようだ」などの助動詞も同じであり、先の学習段階（「そうだ」第20卷参照、「ようだ」第19卷参照）で、それらの学習がスムーズに運ぶためにも、形容動詞の活用は、ここでしっかりと定着させる必要がある。

この映画でとりあげられている形容動詞の文型は次のとおりである。

～です／～では（じゃ）ありません（述部になる）

～な（連体形）

～に（連用形）

用言を修飾する「～に」の用例は、映画の中では

⑫ええ、子供はみんな元気に遊びますね。

⑭きれいに咲きましたね。

の二箇所である。学習者の使用している教科書によっては、この用法は、連体形「～な」に比べて遅く提出されることが多い。その場合は、この映画では、軽くふれるにとどめるか、この機会に導入してしまうか、あるいは、連用修飾の用法を学習するのをまって、復習用として映画を見せるなどの方法をとることが考

えられる。

次の表は、この巻でとりあげられている形容動詞および日本語教育映画第1巻から20巻までに出てくる形容動詞に一般の初級教科書で多く取り上げられている基本的な形容動詞を加えたものである。（左欄の各形容動詞の後の数字は、映画の中の文番号である。）

| 第6巻「静かな公園で」の形容動詞 | その他の基本的な形容動詞 |
|------------------|--------------|
| にぎやか ①②          | 便利 まじめ       |
| 静か ③④            | 不便 ふまじめ      |
| りっぱ ⑤⑦           | 有名 熱心        |
| だいじょうぶ ⑧⑨⑯⑰      | 簡単 丁寧        |
| 元気 ⑪⑫            | じょうぶ 安全      |
| 好き ⑬⑭            | 楽 真っ黒        |
| じょうず ⑯⑯⑰         | 親切 真っ白       |
| へた ⑯             | すてき 真っ赤      |
| きれい ⑯⑯⑯⑯⑯        | 残念           |
| 変 ⑯              | たいへん         |
| 大切 ⑯             | ひま           |
| いろいろ ⑯           | きらい          |
| けっこう ⑯           | いや           |
| だめ ⑯             | 自由           |

また、外来語の形容詞は、「エレガントな、フレッシュな、シックな、ロマンチックな」などのように原則として形容動詞となる。

上表のうち、「けっこう」は、言い切りの形および連体修飾の形で使われるところがふつうで「けっこうに」とはなりにくい。また、「だいじょうぶ」は言い切りの形で使われることがほとんどである。さらに、「好き」「きらい」「不便」「有名」「すてき」「残念」「ひま」「だめ」も、おもに言い切りの形と連体修飾の形で使われ、連用修飾の用法は、「なる、する、感じる、思う」などの動詞にかかる場合に限られるといえよう。したがって、日本語研究者の間では、以上のような語について、形容動詞とみなすかどうか、意見のわかれるところである。日本語教育の立場からは、品詞の帰属よりも、個々の語の意味・用法を理解させることのほうがより重要だと思われる。

なお、「国立国語研究所資料集6 分類語彙表」(1964年 秀英出版)を参照してもらいたい。さらに、基本的な形容動詞については、「国立国語研究所報告78 日本語教育のための基本語彙調査」(1984年 秀英出版)にくわしいので参照してほしい。

## 2. その他の学習項目

### ① 「ね」

この映画の男女のやりとりには、終助詞「ね」が非常に多く出てくる。

国立国語研究所の「現代語の助詞・動動詞」(1951、秀英出版)によれば、終助詞「ね」は次のように分類される。

(1) 軽い詠嘆の気持ちを含む判断

まあ、すばらしいお部屋ね。

そうですね。

(2) 軽い主張、念を押す気持ち

朝はコーヒーいっぱいですからね。すぐおなかがすきます。

(3) 同意を求める。返答を促す

明日はもう雨は降らないでしょうね。

(4) 質問・詰問

どうだね。やっぱりだめかね。

この映画で多く見られるのは(3)であるが、互いに同意を求めるつ、また同意を与えるつ話をしている仲のよい二人の関係が、文末の形式によく出ていると言える。

これと対照的なのは第3巻「やすくないです。たかいです」に多く現れる終助詞「よ」である。主要な登場人物は男二人で、一方が終助詞「ね」で終わる文で同意を求めれば、他方が「よ」で終わる文で反対しつつ逆に説得にかかるという具合である。一意見と反対意見との応酬で話のほとんどが埋められており、口論ばかりしている二人の男の関係がこれも文末の形式によく出ている。

第6巻の男女の会話の中でも終助詞「よ」は出てくるが、ここでは問い合わせに対する答えとして使われており、ちょっと念押しをしている程度である。

映画の中の場面Iの会話をさらに親しい男女の会話にすれば

男 ①'にぎやかだね。

女 ②'ええ、にぎやかな通りね。

となり、①'と②'で男女が入れかわれば、

女 ①"にぎやかね。

男 ②"うん、にぎやかな通りだね。

のようになる。形容動詞の語幹に終助詞「ね」が続く形は一般的に女性の場合で、男性は「だね」となる。また名詞に終助詞「ね」が続くときも同様である。

## ② 陳述の副詞

②の「あまり」は「あまり～ない」という言い方で用いられる。

②「あまり上手じゃありません。」

副詞には、

- (1) 「にっこり笑う」 「のんびり休む」のように、動詞にかかってその動作の状態を意味的に限定する情態副詞
- (2) 「少し暑い」 「もっとゆっくり話せ」のように、用言や副詞にかかって、その動作や状態の程度を示す程度副詞
- (3) 述語の陳述のしかたを修飾する陳述副詞

がある。「あまり」は(3)の例である。

ただし、同じ語でもその使われ方によって、(2)にもなれば(3)にもなるものもある。

例 「とても美しい。」……………程度副詞

「わたしにはとてもできない。」…………陳述副詞

(3)の陳述副詞には次のような種類がある。

否定の述語を要求する

決してしない。 あまりしない。

推測の述語を要求する

きっとするだろう。

要望の述語を要求する

どうぞしてください。

疑問の述語を要求する

なぜするか。

仮定条件を要求する

もしするならば、……。

程度を表す副詞については、第8巻のその他の学習項目を参照のこと。

## 使用にあたって

### 1 効果的な使い方

この映画は、ストーリーの流れの中で基本的な形容動詞を提出しその意味・用法を理解させようとしたものである。学習者によつては、形容動詞の「～(です)」「～な」は既習であつても、連用形「～に」は習っていないことも考えられる。「⑫こどもはみんなげんきにあそびますね。」「㉔きれいにさきましたね。」の二箇所に連用形が出てくるが、この説明の際に「～に」を提示して、形容動詞をまとめておくのもよいだろうし、また簡単にふれる程度にとどめておくのもよいだろう。個々の形容動詞の映像化にはそれぞれ工夫がなされているが、たとえば「りっぱな(建物)」の例のように、映像化に限界があるのはやむをえないと思われる。用例を適宜追加したりして、十分な理解をはかるようにしたい。

飲食の場面の会話は、友人宅を訪ねた場合などを想定して学習者同士練習させてみるとよい。既習の形容詞なども使わせてみれば、会話の内容も豊かなものとなるだろう。

この映画は、初めに通して見せてから二回目に映画の発話の繰り返し及び説明を加えてゆく方法と、これとは逆に、初めに発話の繰り返し・説明、二回目に通して見せるという方法が考えられる。全体的なまとめとしてはストーリーの要約や、登場する男女についての説明(「どんな人か」「この先二人はどうなるか」)など、学習者の力に応じてさせてみるとよい。

### 2 練習帳について

練習帳は、この巻の学習項目を中心に、第3巻で提出された形容詞もあわせて練習できるようになっている。第1ページは、映画のストーリーを流れをおつて確認しようとしたものであるが、内容確認のための質問は、○×形式でなくても口答することもできる。映画をみながら、要所要所にこのような質問をしていくのもいいだろう。第2ページは、この映画で取り上げられている形容動詞を活用させる問題である。否定の形を、「～ではありません」としたが、映画の中では「～じゃありません」となっているので、学習者の既習の形のほうを適宜用いるとよい。第3ページから6ページにかけては、文型を中心とした練習であるが、そのうち、⑥と⑦は形容詞の用法もあわせて復習しようとしたものである。⑧は、形容動詞の副詞的用法の練習であるが、学習者の学習段階によつては省略してもよい。第7ページの会話の練習は、短いものなので暗記させるといいだろう。キーに形容詞がまじっているが、さらに既習の語彙を適宜補って、学習者がスムーズに転換できるように指導する。第8ページは、ビデオテープの音声を用いた聞きとり練習と、内容についての質問である。教室内で書かせるとよい。

## シナリオに沿って

|    |  |     |
|----|--|-----|
| I  | <p>男 ① にぎやかですね。</p> <p>女 ② ええ、にぎやかな通りですね。</p>  | 商店街 |
| II | <p>男 ③ ここは静かですね。</p> <p>女 ④ ええ、静かな公園ですね。</p> <p>男 ⑤ あのりっぱな建物はなんですか。</p> <p>女 ⑥ 美術館ですよ。</p> | 公園  |

### ■語彙・表現

- にぎやか：1. 店や家がたくさん並んでいて人通りも多い様子。↔ (さびしい)  
 2. 人がおおぜい集まって、静かでない様子。↔ (しずかな) 音響だけが大きく、不快感を伴う様子は「うるさい」。
- りっぱ：1. 美しく堂々としている。「りっぱな建物」 2. 優れている。見事だ。  
 「りっぱな人」。3. 十分な様子。「りっぱな大人」

映像 ⇒ 商店街 大通り 池 銅像

### ■文法

- ①にぎやかですね。 ③ここは静かですね。

形容動詞(語幹)の「にぎやか」「静か」に「です」を付けて言い切った形。終助詞「ね」は、相手に同意を求める気持ちを表している。

- ②ええ、にぎやかな通りですね。 ④ええ、静かな公園ですね。

形容動詞の連体形を用いて、上記の①③に答えている。言い切りの形と連体形の形態上の違いを明らかにしようとしている。⑤の「りっぱな(建物)」も連体形である。

- ⑥美術館ですよ。

「よ」は、相手に言い聞かせる気持ちで、自分の考えを強く言う場合に使う終助詞である。また、子供にやさしく教えさとすときなどにもよく使われる。一般に「よ」は、人に押しつけがましい感じを与えるので注意を要する。

④⑤参照。

### ■留意点

女性の「ええ」という受け答えから、二人の関係は対等で、ある程度親密であると想像される。この「ええ」も終助詞「よ」も目上の人に対して用いるのは失礼であることを学習者に注意してもよい。

### ■生活・文化

公園(1)：自然公園と都市公園とに分けられる。利用目的によって、スポーツ公園(運動公園)・水上公園・動物公園・植物公園などがある。

|         |                 |       |
|---------|-----------------|-------|
| II<br>2 | 女 ⑦ あっ、危ない。     | 自転車の子 |
|         | 男 ⑧ だいじょうぶ？     |       |
|         | 子供 ⑨ うん、だいじょうぶ。 |       |
|         | ⑩ どうもありがとう。     |       |

### ■語彙・表現

あっ：驚きに一瞬おそわれたときに発する。驚く対象の動きが一瞬よりも長く持続しているときは「ああ」となる。

だいじょうぶ：1. しっかりしていて、危なくない様子。「このビルは地震があってもだいじょうぶだ。」2. 間違いがないと、固く信じている様子。「あの人なら、だいじょうぶまかせられる。」

うん：形式ばらない返事。ここでは子供らしさ、元気な明るい様子が表れている。

映像 ⇒ 自転車 倒れる 助け起こす

### ■文法

⑧だいじょうぶ？ ⑨うん、だいじょうぶ。

形容動詞（語幹）が、「です」を伴わないのでそのまま現れたもの。ここでの「だいじょうぶ」は、自転車が倒れて転んだ子供に、けがはないかと気づかって言われた問いとその答えである。⑧のイントネーションは上昇、⑨は下降である。（⑩⑪参照）

### ■留意点

⑧の発音はダイジョブに近く、「じょう」の部分が短音であるが、日常会話ではそのように発音をすることも多い。

⑨⑪の子供の発音は舌足らずで聞き取りにくい。初級の初めの段階の学習者は、ここが聞き取れなくとも差しつかえない。また、当然まねて発音させる必要もない。

### ■生活・文化

公園(2)：都市公園法では市民一人当たり市街地内で3m<sup>2</sup>、市域内全体で6m<sup>2</sup>を基準としているが、アメリカの40m<sup>2</sup>、イギリスの24m<sup>2</sup>の基準からみてずっと少ない。

|         |  |          |
|---------|--|----------|
| II<br>3 | 男 ⑪ 子供は元気ですね。<br>女 ⑫ ええ、子供はみんな元気に遊びますね。<br>男 ⑬ 子供は好ですか。<br>女 ⑭ ええ、好きです。<br>⑮ ほら、あの子。<br>男 ⑯ だいじょうぶかな。<br>女 ⑰ だいじょうぶ。<br>⑯ じょうずですよ。 | よちよち歩きの子 |
|---------|--|----------|

## ■語彙・表現

元気：1. 何かをしようとする気持ちが十分あり、実際に活発に動いている様子。

「元気な子供」2. 病気をせず、健康でいる様子。「お元気ですか。」

みんな：残らず全部の意。名詞だが、副詞的に用いられる。

遊ぶ：1. 好きなこととして楽しむ。仕事や学習をしていない。「公園で遊ぶ」

「ポールで遊ぶ」2. 本来持っている機能・能力を發揮させずに無為にすごす。

↔ (働く) 「生産縮小で機械が遊んでいる」「毎日ぶらぶらと遊んで暮らしている」

好き：ある物事・人に心をひかれること。↔ (きらい) 形容動詞である。

「好きな食べ物」「わたしは映画が好きだ。」(第8巻P.43参照)

じょうず：ある物事をする技術が優れていること。↔ (へた) 形容動詞。「田中さんのじょうずなスポーツ」「田中さんはテニスがじょうずです」(第8巻参照)

映像 ⇒ ジャングルジム ブランコ 遊び場 すもうを取る よちよち歩き

## ■文法

⑫ええ、子供はみんな元気に遊びますね。

「元気に」は形容動詞が動詞「遊ぶ」を修飾している用法。

⑬子供は好きですか。

「好き」は格助詞「を」をとらず、格助詞「が」をとる。(第8巻参照)

ここでは「は」となっているが、これは提題の「は」である。

⑯だいじょうぶかな。 ⑰だいじょうぶ。

この「だいじょうぶ」は、よちよち歩きの子供が転びはしないかと案じている表現である。⑯の「かな」は、「でしょうか」の口語的な言い方で、自問しながら、聞いている人に問いかける気持ちを表している。主に男性語。女性語は「かしら」。

|         |  |          |
|---------|--|----------|
| II<br>4 | 男 ⑯ じょうずですね。<br>女 ⑰ いいえ、あまりじょうずじゃありません。<br>男 ⑯あのこはまだへたですね。 | ブランコに乗る子 |
| II<br>5 | 男 ⑯ きれいですね。<br>女 ⑰ええ、きれいな花ですね。<br>⑯ きれいに咲きましたね。            |          |

### ■語彙・表現

あまり：否定の表現とともに用いられ「たいして、それほど」の意味を表す副詞。

肯定の表現とともに用いられると、「度を過ぎて、非常に」の意味になる。

「あまり（にも）難しくて、だれにもわからん」

へた：ある物事をする技術が劣っていること ↔ (じょうず) (18参照)

まだ：今のところ。ある一定の段階に時間的に達していないこと。↔ (もう)

きれい：不純なもの、調和を乱すものなどが混じってないで、整っている様子。

「美しい」が人の心を打つ面を主とするのに対して、「きれい」は対象の状態を主として表す。「きれいな人／色／花」「きれいな手／皿」

### ■文法

⑯いいえ、あまりじょうずじゃありません。

形容動詞の否定の言い方。「じょうずではありません」より口語的な言い方である。他に否定の言い方には「じょうずでは(じゃ)ないです。」の形もある。

⑰ええ、きれいな花ですね。 ⑯きれいに咲きましたね。

⑰は、形容動詞の連体形。⑯は「咲く」に対する連用修飾の形である。(12参照)

### ■留意点

場面II-4は、公園のぶらんこ乗り場で、女性のぶらんこのこぎ方と幼児のこぎ方を「じょうず」「へた」と評価しているところであるが、「じょうず」「へた」は一般に相対的なものである。大人としては「へた」でも、子供としては「じょうず」とも言え、基準の設定によって変わってくる。

### ■生活・文化

公園の遊具：公園には、ブランコ、すべり台、シーソー、ジャングルジム、砂場などの遊具が備えつけられている。子供が遊ぶためのものなので、安全性に対する十分な配慮と行き届いた管理が必要なことはいうまでもない。

II  
6

女 ㉕ あら、忘れ物。  
 男 ㉖ ノートですね。  
 女 ㉗ 変なノートですね。  
 中学生 ㉘ あの……。  
 女 ㉙ これですか。  
 中学生 ㉚ はい。  
 ㉛ 大切なノートです。  
 ㉜ どうもありがとう。

### ■語彙・表現

あらっ：何かに気づいたときの女性語。男性ならば「あれっ」となる。

忘れ物：どこかに忘れておかれている物。(第12巻 ㉗参照)

変：ふつうと違った、妙な様子。「変な味がする」「変な人がいる」形容動詞。

あの…：相手との受け答えを期待して、最初に話しかける時の語。(第2巻① ⑯参照)

はい：「ええ」が問い合わせに対する同意を示す傾向をもつて対し、「はい」は同意というより、相手の発話を認知したという意味をもつ。

大切：形容動詞。なくてはならない様子。「大切な人」「この問題は大切だ」

映像 ⇨ ベンチ 見つける わたす お礼をいう

### ■文法

㉗変なノートですね。 ㉛大切なノートです。

形容動詞「変」「大切」の連体修飾の形。

㉙これですか。

省略文であるが、補うとすれば、「あなたのおっしゃ（ろうとしてい）るものは」である。日本語では、話し手・聞き手に自明のことは省略されるのがふつうである。

### ■留意点

「大切」という言葉は、この場面では礼儀上の意味合いももっている。せっかく人が取り上げてくれたノートであり、そのことに対する感謝の気持ちが、「自分の」とか「なくした」ではなく「大切な」という表現として表れていると見ることができる。「変なノート」は表紙の色柄が奇抜だったために思わず出た表現。「変な」は相手や第三者に失礼になるから使い方に注意。

|         |   |
|---------|---|
| II<br>7 | 男 ⑬ いろいろなこいがいますね。<br>女 ⑭ 大きなこいや小さなこい、たくさんいますね。<br>⑮ あれはきれいですね。<br>男 ⑯ きれいな赤いこいですね。<br>女 ⑰ こちらのはりっぱなこいですね。 |
|---------|---|

## ■語彙・表現

いろいろ：形容動詞。数多くのものについて特徴が多様である様子。

大きな、小さな：名詞を修飾する連体修飾の用法だけである。この段階では形容動詞の例外的事項として扱っておく。

こちら：「こそあ」の基本概念については、第1巻、第2巻を参照。「こちら、そちら、あちら」については第8巻で詳しく取り上げている。ここでは、話し手のいる側を指すという程度でよい。

映像 ⇒ 泳ぐ 橋

## ■文法

### ⑬いろいろなこいがいますね。

主体が動くものであるから「いる」となる。「いろいろなこいがいますね」では、料理の材料としてのこいとか、図鑑の絵とかの場合である。

### ⑭大きなこいや小さなこい、たくさんいますね。

助詞「や」は前後をつなぐ働きをしているが、「と」とは異なる。「AやB」といった場合には、その他Cなどがあるという含みをもつが、「AとB」の場合は他のCDは含み得ない。ここでは大きなこいと小さなこいの他に中くらいの大きさのこいもいることを示している。「小さなこい」と「たくさんいますね」の間に格助詞「が」が省略されている。

### ⑯きれいな赤いこいですね。

連体修飾語二つが「こい」(被修飾語)にかかっている。修飾語が被修飾語に先行する限り、修飾語間の語順は自由なので、⑯「赤いきれいなこい」も可能である。ただし「きれいで赤いこい」「赤く(て)きれいなこい」は、この巻までに扱われていない。

## ■留意点

「大きな」には「大きい」、「小さな」には「小さい」という対応する形容詞があり、一般にこの学習段階では、「大きい、小さい」しか教えないことが多い。学習者の混乱を避けるため、「大きな、小さな」はごく簡単にふれる程度にとどめるほうがいいだろう。

## ■生活・文化

こい：公園などの池ではこいを飼っていることが多い。(出世魚、こいのぼり)

|         |   |     |
|---------|---|-----|
| II<br>8 | 男 ③⁸ ジュースはいかがですか。<br>女 ③⁹ ええ。<br>④⁰ じゃあ、オレンジ・ジュースをお願いします。<br>男 ④¹ もっといかがですか。<br>④² もうけっこうです。<br>女 ④³ ごちそうさま |     |
| II<br>9 | 母 ④⁴ だめ、だめ、だめですよ。<br>④⁵ カンはここよ。   | 母と子 |

### ■語彙・表現

いかがですか：人に食物などを丁寧にすすめる表現。→（どうですか）

お願いします：人に何かを頼むときに用いる表現。頼む対象を明らかにするときは、「～をお願いします。」となる。→「よろしくお願いします」（第4巻参照）

けっこう：1. いい、りっぱの意の形容動詞。「けっこうな物」2. かまわない。

それでよい。「水でけっこうです」3. 何かを断わるときの婉曲な言い方。「いいえ、けっこうです」この場面では3の意味で用いられている。

ごちそうさま：飲食を終えたときの挨拶。ごちそうさま（でした）↔（いただきます）

だめ：ここでは、人の行為を制止する言い方。「してはいけない」の口語的表現。

映像 ⇒ ベンチ こし（を）かける 売店 ポケット 買ってくる 飲む 拾う 捨てる 空缶 ゴミ入れ

### ■文法

③⁸ジュースはいかがですか。 ④¹もっといかがですか。 ④²もう、けっこうです。

人に何かをすすめるときには「～はいかがですか」と問いかけ、それに対する答えは、すすめに従うときと断わるときがある。

○ジュースはいかがですか。 { はい、いただきます。  
{ いいえ、けっこうです。

相手が、すすめに従って飲食した場合、さらにはすすめていえば、

○もっといかがですか。 { はい、（もっと）いただきます。  
{ いいえ、（もう）けっこうです。

のようになる。④²では、「いいえ」が省略されている。

### ■留意点

この飲食の場面でのさまざまな表現は、実際に場面を設定するなどして、学習者が十分使いこなせるところまで練習させるのが望ましい。

# 第7卷 さあ、 かぞえましよう

— 助数詞 —

## 目的・構成

### 1 目的

この映画は、物を数えるときに用いられる数詞、助数詞を取り上げ、日常生活でよく使われる基本的な言い方の学習を目的としている。この映画で取り上げた助数詞は「枚」「匹」「本」「杯」「人(にん・り)」である。

### 2 構成

映画は、手品師が次々に物をとり出して、助数詞を紹介する形をとっている。

|     | 文           | 場 面  | 学 習 項 目        | カウント |
|-----|-------------|--|----------------|------|
| I   | ①<br>↓<br>⑥ | ストップウォッチの映写による秒読み。<br>映画のタイトル。                                   | 「秒」            |      |
| II  | ⑦<br>↓<br>⑯ | 手品師が登場し、紙片を取り出し、「枚」を提示する。ついで、レコード・皿などで練習。<br>その後、いろいろな色のハンカチで練習。 | 「まい」           |      |
| III | ⑯<br>↓<br>⑯ | 手品師が動物を取り出し、「ひき」を提示し、ハムスターなどいろいろな動物などで練習。                        | 「ひき、びき、ぴき」     |      |
| IV  | ⑯<br>↓<br>⑯ | 手品師が粘土で棒を作り、「本」を提示。<br>ひんで数え方の練習をし、かさ・木などで練習。                    | 「ほん、ばん、ばん」     |      |
| V   | ⑯<br>↓<br>⑯ | 手品師が粘土を丸め、「ひとつ」の数え方を提示。風船を使って数え方の練習をし、ボール・卵などで練習。                | 「ひとつ、ふたつ……」    |      |
| VI  | ⑯<br>↓<br>⑯ | 茶碗を使って「はい」の提示と練習。  | 「はい、ばい、ぱい」     |      |
| VII | ⑯<br>↓<br>⑯ | 手品師が細長い袋から子供をとり出し、人の数え方を提示し、練習する。<br>手品師は袋に入り、消えてしまう。            | 「ひとり、ふたり、三人……」 |      |

## 学習項目

### 1 主要学習項目

#### ① 助数詞の種類

ものを数えたり、順序をさし示したりする言葉には、次のふたつの種類がある。

|    | [I 類] | [II 類] |
|----|-------|--------|
| 1  | ひとつ   | いち     |
| 2  | ふたつ   | に      |
| 3  | みっつ   | さん     |
| 4  | よっつ   | し／よん   |
| 5  | いつつ   | ご      |
| 6  | むっつ   | ろく     |
| 7  | ななつ   | しち／なな  |
| 8  | やっつ   | はち     |
| 9  | ここいつ  | く／きゅう  |
| 10 | とお    | じゅう    |

これ以上の大きい数は、II類を使う。たとえば、11—じゅういち、12—じゅうに、20—にじゅう、31—さんじゅういち、のようである。

I類の言い方は、和語系統のものであり、II類の言い方は、漢語系統のものである。日本語では、ものを数えたり、順序を表したりするとき、数の後に、「枚」「本」「人(にん)」などの言葉をつける。1、2、3のような数える言葉を数詞といい、「枚」「本」「人」などを助数詞という。

助数詞の特徴は、数えるものの形や性質によって、異なってくるということである。また、助数詞がついたとき、数詞の発音が変わったり、助数詞の発音が変わったりすることにも注意が必要である。数詞の大部分はII類の言い方であり、I類を使うものは少ない。

この映画では、「枚」「匹」「本」「杯」「人」などの助数詞を取り上げているが、以下、発音の違いをもとにして、助数詞をいくつかにグループわけする。

## A. 数詞の部分も助数詞の部分もあまり変わらないもの

|    | 月 (がつ) | 時 (じ)  | 年 (ねん)      | 番 (ばん)           |
|----|--------|--------|-------------|------------------|
| 1  | いち     | いち     | いち          | いち               |
| 2  | に      | に      | に           | に                |
| 3  | さん     | さん     | さん          | さん               |
| 4  | し      | よ      | よ           | よ／よん             |
| 5  | ご      | ご      | ご           | ご                |
| 6  | ろく     | ろく     | ろく          | ろく               |
| 7  | しち     | しち     | しち／なな       | なな／しち            |
| 8  | はち     | はち     | はち          | はち               |
| 9  | く      | く      | く／きゅう       | く／きゅう            |
| 10 | じゅう    | じゅう    | じゅう         | じゅう              |
| 11 | じゅういち  | じゅういち  | じゅういち       | じゅういち            |
| ?  | なん     | なん     | なん          | なん               |
|    |        | 字、里、人前 | 時間、年生、<br>暨 | 番目、間、代、<br>枚、台、度 |

|    | 秒 (びょう)  | 円 (えん) | パーセント    | 倍 (ばい) |
|----|--|--------|----------|--------|
| 1  | いち   | いち     | いち／いっ    | いち     |
| 2  | に  | に      | に        | に      |
| 3  | さん   | さん     | さん       | さん     |
| 4  | よん   | よ      | よん       | よん／し   |
| 5  | ご  | ご      | ご        | ご      |
| 6  | ろく   | ろく     | ろく／ろっ    | ろく     |
| 7  | なな／しち  | なな／しち  | なな／しち    | なな／しち  |
| 8  | はち   | はち     | はち／はっ    | はち     |
| 9  | きゅう  | きゅう    | きゅう      | きゅう    |
| 10 | じゅう  | じゅう    | じっ       | じゅう    |
| 11 | じゅういち  | じゅういち  | じゅういち／いっ | じゅういち  |
| ?  | なん   | なん     | なん       | なん     |
|    | 万、億、学期、<br>号車、番線<br>番地、メートル<br>ミリ、グラム<br>割、行、部など |        | ページ、キロ   | 重      |

第7巻 さあ、かぞえましょう

|    | 週間(しゅうかん)                  | 回 (かい)       |
|----|----------------------------|--------------|
| 1  | いつ                         | いつ           |
| 2  | に                          | に            |
| 3  | さん                         | さん           |
| 4  | よん                         | よん           |
| 5  | ご                          | ご            |
| 6  | ろく                         | ろつ           |
| 7  | なな／しち                      | なな／しち        |
| 8  | はつ                         | はつ           |
| 9  | きゅう                        | きゅう          |
| 10 | じつ                         | じつ           |
| 11 | じゅういつ                      | じゅういつ        |
| ?  | なん                         | なん           |
|    | 世紀、歳、等、種、周、トン、頭、色、食、冊、丁目、兆 | 個、校、画、局、角、か月 |

B. 助数詞の部分が変わるもの

|    | 足 (そく)  | 軒 (けん)  | 分 (ふん)  | 本 (ほん)      |
|----|---------|---------|---------|-------------|
| 1  | いつ      | いつ      | いつ (ぶん) | いつ (ぼん)     |
| 2  | に       | に       | に       | に           |
| 3  | さん (ぞく) | さん (げん) | さん (ぶん) | さん (ぼん)     |
| 4  | よん      | よん      | よん (ぶん) | よん／し        |
| 5  | ご       | ご       | ご       | ご           |
| 6  | ろく      | ろつ      | ろつ (ぶん) | ろつ (ぼん)     |
| 7  | なな／しち   | なな／しち   | なな／しち   | なな／しち       |
| 8  | はつ      | はつ      | はつ (ぶん) | はつ (ぼん)     |
| 9  | きゅう     | きゅう     | きゅう     | きゅう         |
| 10 | じつ      | じつ      | じつ (ぶん) | じつ (ぼん)     |
| ?  | なん (ぞく) | なん (げん) | なん (ぶん) | なん (ぼん)     |
|    | せん<br>辛 | 階       | 歩、泊     | 杯、匹、遍、<br>百 |

## C. I類を使うもの

|   | 月 (つき)      | 箱 (はこ)      |
|---|-------------|-------------|
| 1 | ひと          | ひと          |
| 2 | ふた          | ふた          |
| 3 | み           | み           |
| 4 | よ           | よ／よん        |
| ? | いく          | いく／なん       |
|   | 部屋 間<br>晩 色 | 坪 けた<br>とおり |

I類を使った言い方は、数が大きくなると使われることが少なくなる。4ぐらいまではI類を使い、それ以上はII類を使うことが多い。(6…ろくとおり、8…はちへや) 次の「人(にん)」「日」の場合には、I類がその一部に残っている例である。

|    | 人         |    | 日 (日数)  | 日 (日付)  |
|----|-----------|----|---------|---------|
| 1  | ひとり       | 1  | いちにち    | ついたち    |
| 2  | ふたり       | 2  | ふつか     | ふつか     |
| 3  | さんいん      | 3  | みつか     | みつか     |
| 4  | よいん       | 4  | よっか     | よっか     |
| 5  | ごいん       | 5  | いつか     | いつか     |
| 6  | ろくいん      | 6  | むいか     | むいか     |
| 7  | しち／なないん   | 7  | なのか     | なのか     |
| 8  | はちいん      | 8  | ようか     | ようか     |
| 9  | く／きゅういん   | 9  | ここのか    | ここのか    |
| 10 | じゅういん     | 10 | とおか     | とおか     |
| ?  | なんいん／いくいん | 11 | じゅういちにち | じゅういちにち |
|    |           | :  |         | :       |
|    |           | 14 | じゅうよっか  | じゅうよっか  |
|    |           | :  |         | :       |
|    |           | 20 | はつか     | はつか     |
|    |           | :  |         | :       |
|    |           | 24 | にじゅうよっか | にじゅうよっか |
|    |           |    | なんにち    | なんにち    |

## ② 助数詞の使い方

前述のように、助数詞は、数えるものの形状や性質によって、何を使うかが決められる。一般に初級段階で取り上げられる助数詞には次のようなものがある。

| 助数詞              | 形状や性質                       | 例                                   |
|------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 枚 (まい)           | 薄くて平たいもの                    | 紙・皿・レコード・切手・シャツ・板・紙幣・コイン・毛布・ふとん・写真  |
| 冊 (さつ)           | 書物など                        | 本・ノート・辞書・雑誌                         |
| 本 (ほん)           | 細長い物                        | びん・鉛筆・ペン・ネクタイ・木・マッチ棒・ベルト・切り花・傘・スプーン |
| 杯 (はい)           | 茶碗などに入れたもの                  | お茶・コーヒー・酒・紅茶・水・ご飯                   |
| 匹 (ひき)           | 獣・魚・虫など                     | 猫・犬・猿・亀・かに・魚・虫                      |
| 頭 (とう)           | 大きい獣                        | 牛・馬・象・ライオン・鹿                        |
| 台 (だい)           | 車・機械など                      | 自動車・バス・カメラ・冷蔵庫・テレビ                  |
| 足 (そく)           | 足にはく一対のもの                   | くつ・くつ下・下駄・ぞうり                       |
| 人 (にん)           | 人                           | 人・子供・学生                             |
| 個 (こ)            | 比較的小さいもので、ほかに特別の数え方がないもの    | くだもの・卵・ボール・時計                       |
| *ひとつ<br>ふたつ<br>… | 「個」とほぼ同じ。(抽象的な事物を数えるのにも使う。) | くだもの・卵・ボール・いす・机・カップ                 |

\*ひとつ・ふたつは I 類の数詞である。

これらの数詞・助数詞を使って、文を作る際に注意しなければならないのは、その数を表す言葉を文のどこに位置づけるかということである。たとえば、

紙が 10枚 あります。

鉛筆を 3本 ください。

りんごを よつつ 買いました。

の文でわかるように、数を表す言葉「10枚、3本、よつつ」は、動詞の直前に位置して動詞を修飾する。学習者はしばしばこれらを次のようにしがちである。

10枚 紙が あります。

鉛筆 3本を ください。

りんご よつつを 買いました。

繰り返し練習することが必要である。

なお、初級学習者で、このような数多くの助数詞を覚えるのが負担な場合、あるいは、短期滞在の学習者で簡単な日常会話の習得だけでよい場合は、これらの助数詞が日本語には存在することを紹介するにとどめ、多少不自然になってしまっても「ひとつ、ふたつ、みつ……」ですませてしまうこともできる。その意味でも、この巻は、助数詞の紹介に適しているといえよう。

詳しくは、文化庁『外国人のための用例辞典』(1971) の付録などを参照にしてほしい。

## シナリオに沿って

|   |        |   |
|---|--------|---|
| I | ナレーション | ① 5秒前<br>② 4秒前<br>③ 3秒前<br>④ 2秒前<br>⑤ 1秒前<br>⑥ はい、スタート。 |
|---|--------|---|

### ■語彙・表現・文法

秒：時を表す単位。1分の60分の1。→ 分、時

スタート：「始める、始まる」。

|    |        |   |
|----|--------|---|
| II | ナレーション | ⑦ いちまい<br>⑧ にまい<br>⑨ きんまい<br>⑩ よんまい<br>⑪ まい<br>⑫ いちまい<br>⑬ にまい<br>⑭ きんまい<br>⑮ よんまい<br>⑯ ごまい<br>⑰ さあ、数えましょう。 |
|----|--------|---|

### ■語彙・表現

まい：薄くて平たいものを数えるときに使う助数詞。

数える：ものの数を調べる。

よんまい：「よまい」ともいう。

映像 ⇒ カード レコード 皿 シャツ 切手

カードがいちまいあります。カードをいちまいください。

レコードがにまいあります。レコードをにまいください。

さらがさんまいあります。さらをさんまいください。

シャツがよんまいあります。シャツをよんまいください。

切手がごまいあります。切手をごまいください。

|     |        |        |        |
|-----|--------|--------|--------|
| III | ナレーション | ⑯ ひき   | ㉔ いっぽき |
|     |        | ⑰ ぴき   | ㉕ にひき  |
|     |        | ㉑ びき   | ㉖ さんびき |
|     |        | ㉒ いっぽき | ㉗ よんひき |
|     |        | ㉓ にひき  | ㉘ ごひき  |
|     |        | ㉔ さんびき |        |
|     |        |        |        |
|     |        |        |        |

■ 語彙・表現・文法・

ひき：獣・魚・虫などを数えるときに使われる。「1、6、8、10」は「いっぴき、ろっぴき、はっぴき、じっぴき」となる。「3」は「さんびき」となる。比較的大きな獣を数えるときは「とう」も使われる。

映像 ⇒ あなぐま いぬ さる かめ かに

あなぐまがいっしきいます。

いぬがにひきいます。

さるがさんびきいます。

かめがよんひきいます。

かにがごひきいます。

|    |        |    |      |    |      |
|----|--------|----|------|----|------|
| IV | ナレーション | 29 | ほん   | 35 | いっぽん |
|    |        | 30 | ぽん   | 36 | にほん  |
|    |        | 31 | ぼん   | 37 | さんぼん |
|    |        | 32 | いっぽん | 38 | よんほん |
|    |        | 33 | にほん  | 39 | ごほん  |
|    |        | 34 | きんばん |    |      |

■ 語彙・表現・文法

ほん：細長いものを数えるときに使われる。「1、6、8、10」は「ひき」と同様「ほん」となる。「3」は「ほん」となる。

映像 ⇒ かさ 木 バンド 鉛筆 ネクタイ

かさがいっぽんあります。

木がにほんあります。

バンド（ベルト）がさんぽんあります。

鉛筆がよんほんあります。

ネクタイがごほんあります。

|   |        |    |      |    |            |
|---|--------|----|------|----|------------|
| V | ナレーション | ④〇 | ひとつ  | ⑤〇 | さあ、数えましょう。 |
|   |        | ④一 | ふたつ  | ⑤一 | ひとつ        |
|   |        | ④二 | みっつ  | ⑤二 | ふたつ        |
|   |        | ④三 | よっつ  | ⑤三 | みっつ        |
|   |        | ④四 | いつつ  | ⑤四 | よっつ        |
|   |        | ④五 | むっつ  | ⑤五 | いつつ        |
|   |        | ④六 | ななつ  |    |            |
|   |        | ④七 | やっつ  |    |            |
|   |        | ④八 | ここのつ |    |            |
|   |        | ④九 | とお   |    |            |

■ 語彙・表現・文法・

ひとつ：数詞。形のあるもので、ほかに特別の数え方がないものを数えるときに使う。「個」を使って言うこともできる。

映像 ⇒ 風船 ボール 卵 カップ みかん あめ

ふうせんがいくつありますか。

ボールがひとつあります。 ボールをひとつください。

卵がふたつあります。 卵をふたつください。

カップがみつあります。 カップをみつ買いました。

みかんがよつります。 みかんをよつ食べました。

あめが二つあります。 あめを二つもらいました。

|    |        |       |         |
|----|--------|-------|---------|
| VI | ナレーション | 56 はい | 60 いっぱい |
|    |        | 57 ぱい | 61 にはい  |
|    |        | 58 ぱい | 62 さんぱい |
|    |        | 59 みつ |         |
|    |        |       |         |

## ■語彙・表現・文法――

はい：カップなどに入れたものを数えるときに使う。「1、6、8」のときは「ぱい」、「3」は「ぱい」となる。カップに何も入っていないときは、「ひとつ、ふたつ」と数え、なかに何か入ると「いっぱい、にはい」となる。

映像 ⇒ カップ 紅茶 入れる

紅茶がさんぱいあります。 紅茶をさんぱいいれます。

|     |        |         |
|-----|--------|---------|
| VII | ナレーション | 63 ひとり  |
|     |        | 64 ふたり  |
|     |        | 65 さんにん |
|     |        | 66 よにん  |
|     |        | 67 ごにん  |
|     |        |         |
|     |        |         |

## ■語彙・表現・文法――

にん：人を数えるときに使う助数詞。「1、2」だけ和語のI類を使う（「ひとり、ふたり」）が、「3」以上は、II類の数詞に「人(にん)」を使って表す。

子供がごにんいます。

男の子がふたりいます。

女の子がさんにんいます。

## 第8卷

どちらが  
すきですか

— 比較・程度の表現 —

## 目的・構成

## 1 目的

この映画は比較・程度の表現、および「～は～が～です」の文型で表されるもののうち、その基本的な表現の導入をおもな目的とする。その他、待遇表現の初步の導入もあわせて行う。

## 2 構成

良子の家を舞台に、良子と和夫のふたりが身近な絵や人形を話題にして、それぞれ互いの好みなどを知るという、一種の“お見合”の場面が展開していく。このふたりの男女の会話にさらに良子の母、弟が加わり、話のスタイルにバラエティを添えている。

| 場面                  | ストーリー                       | 学習項目                      | カウント |
|---------------------|-----------------------------|---------------------------|------|
| I ① 路上              | 場面設定のためのナレーション。             |                           |      |
| II ④ 応接室で(1)<br>⑨   | 壁の日本画を見ながらの良子と和夫の会話。        | 「～は～が～です」「～は～ほど～じゃない」     |      |
| III ⑩ 応接室で(2)<br>⑯  | 画集を見ながらの良子と和夫の会話。           | 「～の中で～が一番好き」「～と～ではどちらが好き」 |      |
| IV ⑯ 応接室で(3)        | 人形ケースの中の人形を見ながらの良子と和夫の会話。   | 「どの～が好きですか」               |      |
| V ㉓ 応接室で(4)         | 引き続き、人形についての話。              | 「～は～が～です」                 |      |
| VI ㉓ 応接室で(5)        | 良子の母と弟の明が入ってくる。             | 「お～ですか」                   |      |
| VII ㉗ 応接室で(6)<br>㉙  | 弟の明が会話に参加、身内の会話。            | 普通体への応用「～は～が～したい」など、欲求表現  |      |
| VIII ㉕ 応接室で(7)<br>㉙ | 良子、明がピアノをひく。話題はケーキからピアノに移る。 | 「～は～が上手／下手だ」              |      |
| IX ㉙ 応接室で(8)<br>㉙   | 引き続きピアノについての会話。和夫、ピアノをひく。   | 普通体と丁寧体との変換               |      |

## 学習項目

### 1 主要学習項目

#### ① 比較・程度の表現

この映画では、比較・程度の表現として、次の六つが取り上げられている。

1. ~と~とでは、どちらが~ですか。
2. ~より~のほうが~です。
3. ~のほうがもっと~です。
4. ~の中では、何がいちばん~ですか。
5. ~がいちばん~です。
6. ~は~ほど~ではありません。

##### (1) 二者の比較表現

ふたつの事物、また人を比較する場合は、上記の文型のうち(1)と(2)と(3)を用いて表される。

Q：日本語と中国語とでは、どちらが難しいですか。

A：日本語より中国語のほうが難しいです。

答えの中の「日本語より」を省略することも多いが、より二者の程度をきわだたせたい場合は上のようになる。述部には形容詞・形容動詞だけでなく、動詞がくることもある。

Q：田中さんとスミスさんとでは、どちらが速く走れますか。

A：(スミスさんより)田中さんのほうが、速く走れます。

映画の中では、次のような文として取り上げられている。

⑬ こちらの絵とこちらの絵と、どちらが好きですか。

⑭ こちらの絵のほうが好きです。

⑮ あ、こっちより、そっちのほうが大きい。

⑯ 僕のほうがもっと上手ですよ。

⑮、⑯は、どちらも質問に答えたものではないが、状況からみると、二者を比較したうえでの発話である。この映画では取り上げられていないが、二者の程度が同等であった場合は、次のようになる。

Q：テニスとピンポンとでは、どちらが好きですか。

A：どちらも好きです。

また、述部にたつものによって、「どちらが」の「が」は次のように変化する。

北海道と京都とでは、どちらへ行きたいですか。

東京の大学と大阪の大学とでは、どちらに入りたいですか。

「～と～とでは」の部分も「～と～では」「～と～と」のように省略されることも多い。

## (2) 三者以上の比較表現

三者以上を比較する場合は、前述の比較・程度を表現する文型のうち、次のものが用いられる。

4. ～の中では、何がいちばん～ですか。

5. ～がいちばん～です。

4.の「何」は、比較する対象によって「いつ」「だれ」「どこ」「どの～」となる。

a スポーツの中では、何がいちばん好きですか。

b 京都は、四季の中では、いつがいちばんきれいですか。

c このクラスでは、だれがいちばん歌がじょうずですか。

d 日本の中では、どこへいちばん行きたいですか。

e 世界(の中)では、どの山にいちばん登りたいですか。

具体的な物をとりあげて、比較対照する場合は、

f りんごとみかんとバナナとでは、どれがいちばん好きですか。

となり、「何」は用いない。ただし、「いつ」「だれ」「どこ」などはどの文型でも用いられる。映画の中では、次のような文としてみられる。

⑩ 良子さんは、西洋の画家の中で、だれがいちばん好きですか。

⑪ わたしはゴッホが好きです。

⑫ どの人形が好きですか。

⑬ どれがお好きですか。

⑩は、三者以上の比較・対照の典型的な文であるが、⑪⑫⑬は「～の中では」という選択範囲が明示されておらず、また「いちばん」も省略されている。教室ではこの点を学習者に明らかにし、基本的な文型をきちんと言えるようになってから、省略させたほうがよいだろう。

二者の比較・対照と同様、比較するものの程度が同等であった場合の答え方は

a' 何でも好きです。

b' いつでもきれいです。

c' だれでもじょうずです。

d' どこへでも行きたいです。

e' どの山にでも登りたいです。

f' どれでも好きです。

のようになる。

### (3) 基準を用いた判断文

ある事物・人を基準として、ほかのものの程度を判断する場合、次のような文型が用いられる。

新幹線は自動車より速いです。

新幹線は飛行機ほど速くないです。

いずれも、新幹線が速いか速くないかを判断した文だが、判断の基準は「～より」 「～ほど」の形で表されている。注意したいのは、否定の形とともに表現する場合は、「～より」を使わずに、「～ほど」となることである。

映画の中では、一例だけ取り上げられている。

⑨ うーん、日本画は、洋画ほど好きではありません。

この場面は、後のp.43〔生活・文化〕にも述べてあるが、話し手の心理的な作用の結果として、「好きではない」という否定表現がとられ、その結果、この文型を用いたということも考えられるので、この文型の意味・用法を理解させるには適切な例とはいえない。したがって、教授者は、適切な例を補い理解をはかるか、あるいはこの文型にはあまりふれずに、上述(1)(2)の比較表現の理解に重点をおくほうがいいだろう。

### ② 「～は～が～」

この巻で取り上げられている「～は～が～」の文型には次のようなものがある。

- (1) 「～は～がじょうずだ／へただ」のように能力を表す言い方。
- (2) 「～は～が好きだ／きらいだ」のように好ききらいを表す言い方。
- (3) 「～は～がほしい／動詞(連用形)+たい」のように欲求を表す言い方。
- (4) 「～は～ができる」のように可能を表す言い方。
- (5) 「～は～が高い」のように部分の属性を表す言い方。

一般に初級段階で「～は～が～」の文型といわれるものには、以上のほかに、

(6) 「～は～がわかる／聞こえる／見える」のような自分の意志によらない感覚動詞を用いた言い方。(第9巻参照)

(7) 「～は～がある／要る」のような所有・必要を表す動詞表現。  
がある。

この日本語教育映画全30巻の中では、(4)の可能表現については、動詞の可能形の導入とともに第17巻でくわしく取り上げられている。また(3)の欲求の表現については第18巻でくわしく取り上げられている。

- (1) 「～は～がじょうずだ／へただ」

「～が」は「じょうずだ」「へただ」の対象語である。

④⑤ お姉さんは、ピアノがじょうずですね。

⑤① ぼくは、へたですよ。

④⑤では、「じょうずだ」の対象語は「ピアノ」で、「じょうずだ」の属性主体は、「お姉さん」である。⑤①の文では対象語「ピアノ」が省略されたものである。

(2) 「～は～が好きだ／きらいだ」

これも(1)と同様に、「～が」は「好きだ／きらいだ」の対象を表している。

⑥ 和夫さんは絵が好きですね。

⑪ わたしはゴッホが好きです。

(3) 「～は～がほしい／動詞(連用形)+たい」

③⑧ ぼく(は)ショートケーキが食べたい。

④⑩ わたしもショートケーキがほしい。

どちらの文でも「食べたい／ほしい」の対象語は「ショートケーキ」である。

なお、「動詞(連用形)+たい」の言い方で他動詞を用いた場合、「～は～が～たい」と「～は～を～たい」のふたつの形で表れるが、これについては第18巻参照。

(4) 「～は～ができる」

この映画では次の文でてくる。

⑦② この人形はおもしろいことができます。

⑧② どんなことができますか。

⑨② ほら、おじぎができます。

「できる」の対象は「おもしろいことが」「おじぎが」である。

(5) 「～は背が高い」

この巻では、次の一例しかない。

⑩② この人形は、ずいぶん背が高いですね。

「背が高い」は第3巻にもあり、第3巻の段階では、イディオムとして教えてしまうほうが学習者にはよいとしたが、第9巻においては、「～は～が～」の文型のひとつとしてとらえることができる。上述の(1)～(4)までの「～が」が述部の対象であったのに対し、ここでは「背」は「人形」に属するもの、「人形」の部分であるので「この人形の背は高い」と言いかえることができる。ほかに、

花子は髪の毛が長い。

太郎は腕が太い。

いずれも、主体の一部分の属性・状態を言っている。日本語に特徴的な表現といえるので、この機会に十分に練習してもよいだろう。

## 2 その他の学習項目

### ① 「こちら、そちら、あちら」

「こそあど」については、第1巻、第2巻で学習したが、この巻では「方向」を表す指示代名詞「こちら」「そちら」を取り上げた。

⑬こちらの絵とこちらの絵と、どちらが好きですか。

⑭そちらの絵のほうが好きです。

⑯は、話し手が、自分の手元にある画集の中の絵の2枚を指しながら、発話したものである。それに対して、⑭では、相手の側にある画集の絵のひとつを「そちら」と表している。このように、「こちら」は、話し手のいる方向にある物を示して使われ、「そちら」は、話し相手がいる方向にある物を指す。物を指す用法においては、「これ」「それ」「この」「その」とおきかえることもできる。それに対して、その方向にある場所の意味で用いられるときは、「ここ」「そこ」ともいえるが、「ここ」「そこ」が目に見える明らかな場所を指すのに対して、「こちら」「そちら」は、はっきりとはしない単なる方向を指し示している場合に使われる。

「地下鉄の入り口は、どこですか。」

→「そちらです。」（存在する方向を示している。）

→「そこです。」（両者が目で確認できる場所を示している。）

「あちら」は、話し手からも相手からも遠く離れた場所の方向を指している。

あちらにみえるのが富士山です。

あちらを向いてください。

「あちら」にある物を示して「あれ」、場所を示して「あそこ」と言いかえることができるのは「こ・そ」と同様である。

以上が、基本的用法だが、実際には、「こちら」「そちら」「あちら」は一種の待遇表現となって使われる。

「もしもし、こちらは田中ですが…」（話し手自身をさす）

「こちらは、山下さんです。」（人を紹介するときに使う）

「そちらの御都合でお決めください。」（話し相手をさす）

「そちらは、お友達ですか。」（話し相手に近い関係にある人）

「あちらから返事がきました。」（先方の意味）

「こちら」「そちら」「あちら」の疑問詞は「どちら」である。

「こっち」「そっち」「あっち」は、口語的表現で、丁寧な感じは薄くなる。

## ② 疑問詞の整理

この映画では、次のような疑問詞が取り上げられている。

どれ：多項関係の選択。

どれがいいですか。

どちら：ふたつのものの中からひとつを選ぶときに尋ねる。

方向をたずねる言葉。どっちは、その口語的表現。

「駅はどちらですか。」「駅はあちらです。」

「どこ」「だれ」「どれ」の丁寧な言い方。

おたくはどちらですか。

次の方はどうですか。

どんな：あるものの種類・状態を尋ねる。(どのような。)

あなたはどんな音楽が好きですか。

どの：たくさんの中から、ひとつのものを選ぶときに使う。名詞を伴う。

どの人形が好きですか。

どこ：場所や部分を尋ねる。

どこの人形ですか。

田中さんはどこにいますか。

だれ：名前のわからない人、または不定の人を示す。(どなた。)

このクラスでは、だれがいちばん背が高いですか。

だれに電話をかけましたか。

## ③ 程度を表す副詞

いわゆる程度を表す副詞は、そのもの自体の程度を述べるもの(とても、ほんとうになど)と、ほかとの比較においてその程度を述べるもの(ずっと、だいぶ、わりあいなど)とがある。そのうち、程度を述べる副詞は、比較表現の学習で多く取り上げられる。

ずいぶん：ふつうの程度を越えての意味である。話し手の驚きが表れている。

⑯ずいぶんたくさん人形がありますね。

この前見たときよりずいぶん大きくなりましたね。

もっと：「～より」という比較の対象・基準が含まれていて、「それよりさらに」という意味である。

⑯ぼくの方がもっと上手です。

インドも人口が多い。しかし、中国はもっと多い。

ずっと：ほかのものと比較して、非常に大きい差がある様子を示している。

アメリカは日本よりずっと広い。

今日はきのうよりずっと暑い。

わりに：比較・対象の基準が一般的なもので、それと比べていくらか程度が高いことを示している。「～より」とは共起しない。

(わりと、わりあいに、比較的)

今日はわりに調子がいい。

この映画はわりにおもしろい。

副詞は、絵教材などの補助手段を使って表現することが難かしく、また文脈によって違った読みとり方をしなければならないこともある。学習者にとってだけでなく、教える側にとっても、副詞の習得は難しい問題であるが、日本語を生き生きとしたものにするためには、これらの副詞の学習には力をいれたいものである。

一般に、初級で取り上げられる程度を表す副詞は、次のようなものである。

|      |      |
|------|------|
| とても  | ずっと  |
| だいぶ  | わりに  |
| ずいぶん | わりあい |
| たいへん | 大いに  |

## 使用にあたって

### 1 効果的な使い方

この映画はふたつの部分からなる。和夫と良子という一組の男女によるやや緊張した会話が展開する前半部、そして良子の母、弟が加わり、前半部とは対照的に打ちとけた、和やかな雰囲気の中で会話がくり広げられる後半部。こうしたふたつの対象的な場面をとおし、この映画では話のスタイルの変化をうまく画面に写し出している。

そこで映画使用にあたってははじめ、とおして見せ、次に前半、後半と二部に分けそれぞれ繰り返し見せるといいだろう。ただし、後半に現れる普通体はこの段階では指摘するにとどめ、とくに練習の必要はないものと思われる。学習者は身近かに聞く日本人どうしのくだけた言い方に早い時期から興味を示すが、その使用にあたってはだれと話すか、どんな場面で用いるかななどいろいろな要素を考慮しなければならず、簡単ではない。場面や対人関係を考慮せずに普通体を使うとただ、なれなれしい感じを与えるだけなので要注意。

この映画の目的のひとつは、比較程度の表現の学習であるが、この表現を使つていろいろやりとりがなされている中で、選択を迫られたときのあいまいな答え方は、学習者にはわかりにくいところかもしれない。自分の選択を直接述べることを避けるという日本人の態度はそのまま、外国人の目には「日本人ははっきりものを言わない」とうつるわけだが、この辺の事情は日本社会についてのひとつの情報として取り上げておく必要があろう。言葉の背後にある「文化」を映像をとおして視覚的にとらえることができるのも映画ならではのことであろう。大いに活用したいものである。

### 2 練習帳について

16ページはこの巻の主要文型を解説的に提示、17ページ、18ページでは単純な形作り、構文作りの練習、続いて19、20ページで丸うめ、また対語などの整理。ここまでが基礎練習。次の応用練習に進むため、しっかり練習したいものである。21ページ、22ページは問い合わせ、また文完成などの応用練習。23ページは会話練習。24ページは最終チェックとしてブランクを埋めることにより今まで覚えたこの巻の学習内容を確認する。

## シナリオに沿って

|    |  |        |
|----|--|--------|
| I  | ナレーション ① 今日は、日曜日です。<br>② 朝からとてもいい天気です。<br>③ 和夫さんは、午後、友達の良子さんのうちへ行きました。 | 良子さんの家 |
| II | 和夫 ④ 日本画ですね。<br>⑤ この絵は、いいですね。  | 応接室    |

### ■語彙・表現

天気：空の様子を表す語。1. 「いい、悪い」などの形容詞を伴って気象状態を表す。2. 「今日は天気です。」だけで気象状態がいいこと、つまり「いい天気」の意味を表す。

うち：家族を含む家、つまり家庭。また、自分の属するところ。「うちの会社」。「いえ」は人の住む建物。しかし、実際には「このうちは大きい」「結婚していえを持つ」のように同義に用いられることが多い。

日本画：日本の伝統的な手法により、描かれる絵。↔洋画。（第22巻参照）

### ■文法

③和夫さんは、午後、友だちの良子さんのうちへ行きました。

時を表す語は助詞「に」を伴う場合と伴わない場合がある。「○時」は「に」を伴うのがふつうであるが、「○日、○月、○年」になると、文体によって伴わないこともある。また「朝、夜」などはそのままで用いられるが、「昼、晩」は「に」を伴うこともある。「午後」、その対義語「午前中」は伴う場合と伴わない場合が考えられる。

（月日の言い方は10巻、時の言い方は5巻参照）

### ■留意点

この映画は「今日は日曜日です」というナレーションから始まっているが、これは小説や映画などこれから始まる物語を見る側にも共時体験させるため、よく使われる形である。しかし、ふつうの会話はそのようなナレーションから始まることはなく、もし学習者がその形を日常生活で使ったとしたら、日本語として非常におかしい感じを与えることになるので注意。

### ■生活・文化

他家を訪問する場合、前もって電話などで都合を尋ねるのは、常識であろう。そうして訪ねていくとき、日本では「手みやげ」といって何か持っていく習慣がある。往き来の頻繁な間ではこれは不要であるが、疎遠な人、また、たまに訪ねて行く場合、菓子などを持参することによって、相手に親愛の情を示すわけである。

|     |   |
|-----|---|
| II  | 良子 ⑥ 和夫さんは、絵が好きですね。<br>和夫 ⑦ ええ、特に日本画が好きです。<br>⑧ 良子さんは？<br>良子 ⑨ うーん、日本画は洋画ほど好きではありません。 |
| III | 和夫 ⑩ 良子さんは、西洋の画家の中で、だれがいちばん好きですか。   |

## ■語彙・表現

好き：形容動詞。対象は「～が」で表す。↔きらい

特に：ほかのものに比べて、ずっと。特別に。

うーん：判断が難しいとき、またはそれを口にだすことを躊躇するときに使われる。

西洋：ヨーロッパ・アメリカ諸国の称。↔東洋。日本対西洋の対で使われる。「和服↔洋服」「和室↔洋室」

画家：絵を描くことを職業とする人。「家」はあることを職業としている人。→作家、音楽家、専門家など。

映像 ⇒ 応接間 ソファー テーブル

## ■文法

⑥和夫さんは、絵が好きですね。

「好き」の対象は〈が〉によって表される。英語式に「絵を好きです」にならないように注意。

⑦日本画は洋画ほど好きではありません。

日本画と洋画の比較・選択を述べる文。

⑧良子さんは？

良子さんはどうですか（日本画が好きですか）を略した言い方。

⑩西洋の画家の中でだれが一番好きですか。

多項関係の選択の表現。

## ■生活・文化

日本の社会では、話し手は自分の選択を直接表明することを避けようとする傾向が強い。日本画が好きかと尋ねられた良子は⑨で、「日本画は洋画ほど好きではありません」と消極的な意志表示をしている。これは日本画が好きだという和夫と対立したくないという良子の心理が働いたためである。

|     |   |
|-----|---|
| III | 良子 ⑪ わたしはゴッホが好きです。<br>和夫 ⑫ ぼくも、ゴッホは好きです。<br>⑬ こちらの絵とこちらの絵と、どちらが好きですか。<br>良子 ⑭ そちらの絵の方が好きです。<br>⑮ 和夫さんは？ |
|-----|---|

## ■語彙・表現

こちら：話し手の方向にあるものを指す代名詞。→こっち

そちら：話し相手の方向にあるものを指す代名詞。→そっち

ぼく：男の一人称。（→わたし）

映像 ⇒ 画集

## ■文法

⑪わたしはゴッホが好きです。⑫ぼくも、ゴッホは好きです。

⑪は⑥と同じように「好き」の対象が「が」によって表されているが、⑫はゴッホが好きだという良子に賛意を表す言い方で、「ぼくも」となり、「ゴッホは」となっている。この場合、「ゴッホは」は省略されることが多い。

⑬こちらの絵とこちらの絵と、どちらが好きですか。⑭そちらの絵の方が好きです。  
二項関係の選択の表現とそれに対する返答。

⑮和夫さんは？

和夫さんはどうですか（どちらが好きですか）を略した言い方。

## ■留意点

ゴッホ：外国の地名、人名の発音は中国、台湾、南北朝鮮などは例外（現在、「原地読み」に移りつつある）として、ほかは「原地読み」を原則とする。しかし学習者は原語のアルファベットを自国ふうに発音してしまい、混乱をきたすことが多いので要注意。「ゴッホ」は「ヴァン・ゴーグ」と欧米ふうに呼ばれることがある。

## ■生活・文化

日本語の自称は、話者の性別、年齢・職業（または階層）により用いられる語が異なる。また対象、場面によっても異なる。「ぼく」についていえば、話者は男性に限られるが、年齢は幅広く、子供、学生に多く用いられ、職人や下層社会ではあまり用いられない。またその際、相手が話者と親しい関係にあることも条件となるが、これがあらたまつた場所になると「わたし」が用いられる。

|     |   |
|-----|---|
| III | 和 夫 ⑯ ぼくもこの絵が好きです。<br>⑯ こちらの絵は、あまり好きではありません。      |
| IV  | 和 夫 ⑯ ずいぶん人形がありますね。<br>良 子 ⑯ ええ。<br>⑯ どの人形が好きですか？ |
| V   | 和 夫 ⑯ そうですね。<br>⑯ この人形は、ずいぶん背が高いですね。              |

## ■語彙・表現

あまり：後ろに否定の表現を伴って、「それほど～でない」の意を表す。

ずいぶん：「ふつうの程度を越えて」の意を表す。しばしば予想を越えるというケースがあり、一種の驚きを表すことがある。

映像 ⇒ 人形ケース こけし

## ■文法

⑯ ぼくもこの絵が好きです。

二項関係の選択「AとBとではどちら（の方）が好きですか」に対する答え。

「AよりB（の方）が好きです」の「Aより」がここでは略されている。

⑯ そうですね。⑯ そうですね。

⑯は「こちらの絵はあまり好きではない」という和夫の見解に対する良子の同意。⑯は良子の問い合わせに対する和夫のためらいを示している。

⑯ どの人形が好きですか。

先にあげた⑯の「どれ」の代わりに「どの十名詞」が用いられた形。

⑯ この人形は ずいぶん背が高いですね。

人形の属性のうち人形の部分「背」を「～は～が～」の「～が」によって示した言い方。「鼻が高い」「目が丸い」

## ■留意点

⑯ ⑯の「そうですね」はイントネーションによって意味が異なる。同意の場合は「～～～～～」のように発音される。また最後の〈ね〉も軽く発音される。これに対して、ためらいの場合は文末は下降調となる。〈ね〉も長く発音される。

「背が高い」はもっぱら人の場合に用いられる。人形についても⑯のように言うことがあるが、やや擬人化した表現といえる。建物、木、山などは単に「高い」で表される。また動物の場合、その全体印象から「大きい」という言葉を用いる。

- |   |   |
|---|---|
| V | 和 夫 ㉔ どこの人形ですか。<br>良 子 ㉕ そちらは京都の人形です。<br>㉖ こちらはフランスの人形です。<br>㉗ この人形はおもしろいことができます。<br>和 夫 ㉘ どんなことができますか？<br>良 子 ㉙ ほら、おじぎができます。<br>和 夫 ㉚ ほう一、おもしろいですね。<br>㉛ でも、へんなおじぎですね。 |
|---|---|

### ■ 語彙・表現

おもしろい：何かを見たり、聞いたりしたとき感じる心楽しい、心ひかれるという気持ち。

できる：ここでは能力があるという意。ほかに「用事ができる」「友達ができる」など、物事が生じるという意味、「宿題ができる」「写真ができる」のように完成するという意味がある。

ほら：相手に注意を与えるときに使われる。日常会話で頻用される。

おじぎ：日本のあいさつ表現のひとつ。頭を下げて敬礼する。

ほう一：感嘆を表す。ただし、話者は年長の男性に限られる。(年長の女性もときには用いることあり)

でも：直前の発話に逆接的なコメントを付けるときに使われる。

へんな：ふつうではない。ふつうとは違うの意。(第6巻、p. 6 参照)

### ■ 文法

#### ㉔ どこの人形ですか。

「どこの+名詞」は、ものについて問うときには、そのものの発生地、製造元、所属場所を、人について問うときには、その人の出生地、出身地、所属先をきいている。

#### ㉗ この人形はおもしろいことができます。

可能の表現。動詞の場合は「～することができる」。(第17巻参照)

#### ㉙ ほら、おじぎができます。

「～ができる」で可能を表す。「ピアノができる」

### ■ 生活・文化

京都は 794 年以来、明治の初めまで、長く学術・文化の中心地であり、独特的美術工芸品を数多く産する。京都の人形、京人形もそのひとつで独特の気品と優雅さをもつ。(第29巻参照)

|    |  |
|----|--|
| VI | 良子の母 ③② 和夫さん、ケーキはおきらいじゃありませんか。<br>和 夫 ③③ いいえ、好きです。<br>良子の母 ③④ どれが、お好きですか。<br>和 夫 ③⑤ これをください。<br>良子の母 ③⑥ どうぞ。 |
|----|--|

## ■ 語彙・表現

ケーキ：→和菓子→ショートケーキ／バースデー・ケーキ／クリスマスケーキ  
 ください：表現としてやや命令的になるので、代わりに「これをお願いします」がよく用いられる。

どうぞ：何かをすすめるときの言い方。

映画 ⇒ お盆 選ぶ 皿

## ■ 文法

### ③②ケーキはおきらいじゃありませんか。

日本語の否定疑問に対する答え方は、質問者の言ったこと全体を認めるなら、「はい～ません」、認めないなら「いいえ、～ます。」となるが、③②のようにあらかじめ肯定の答えを予想しているような場合、答えは「いいえ、(きらいじゃありません。)、好きです。」となる。

### ③②ケーキはおきらいじゃありませんか。 ③④どれがお好きですか。

この巻では③②の「おきらい」と③④の「お好きですか」が敬語法初歩の形として導入されている。この形は相手、または話題の人物そしてそれに属するものに対して敬意を表す場合に用いられる。③②「おきらいじゃありませんか」は、ものをすすめるにあたって相手の好みをきいている。③④「どれがお好きですか」は多項関係の選択を問う質問形であるが、「好きなのをお取りください」の意味である。

### ③⑤これをください。

③④の多項関係の選択を問う質問に対し、自分の選んだものを相手に依頼する形で答えている。「～をください」は買物場面でも使用される文型である。

(第1、13巻参照)

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| VII | 良子の母 ③7 明は？              |
|     | 明 ③8 ぼく、ショートケーキが食べたい。    |
|     | 良子の母 ③9 良子は？             |
|     | 良子 ④0 わたしもショートケーキが欲しい。   |
|     | 明 ④1 あっ、こっちより、そっちの方が大きい。 |

## ■語彙・表現

こっち、そっち：「こちら、そちら」に対応するくだけた表現。ここの会話全体が普通体で行われていることに対応して現れたもの。→あっち、どっち。

映像 ⇒ フォーク

## ■文法

③7明は？ ④0良子は？

「明は／良子は、どれがいいですか。」を略したもの。

③8ぼく、ショートケーキが食べたい。④0わたしもショートケーキがほしい。

どちらも欲求表現。「～は～が～」文型のひとつとして、このふたつの欲求表現を取り上げているが、くわしくは第18巻参照。

家族間の会話のため、「です」を略した普通体の会話となっている。

④1あっ、こっちより、そっちの方が大きい。

ふたつのものの比較・対照の表現。普通体の会話。

## ■留意点

会話で普通体を使うとかなりくだけた印象を与える。日常一般に親しい者どうしの間で使われているため、学習者もちょっと慣れると、普通体を使いたがる傾向があるが、「です・ます」体を習得することが先決である。

## ■生活・文化

家族の中では、上の者が下の者を呼ぶとき、敬称を略すのがふつうである。また下の者がまだ幼いときには「～ちゃん」という親称を用いることもある。反対に、下の者が上の者を呼ぶときには「お父さん、お母さん、お姉さん……」などの親族名称を用いるのがふつうである。

日本では家族の中の会話のスタイルは戦前と大きく変わった。戦前までは家族の中にあっても、子供は、両親、祖父母など年長者に対しては敬語を用いなければならなかった。しかし今では身内の者は敬語使用の対象からははずされる傾向が強い。多くの家庭では年齢に関係なく普通体でコミュニケーションがなされている。

|      |   |
|------|---|
| VII  | 明 ④2 そっちのショートケーキがいいな。<br>母 ④3 まあ一。<br>④4 こらっ。                           |
| VIII | 和夫 ④5 お姉さんは、ピアノが上手ですね。<br>明 ④6 ぼくの方がもっと上手ですよ。<br>④7 ねえ、お姉さん。<br>(せりふなし) |

## ■語彙・表現

こらっ：相手を叱るときに用いる。(ふつう、その対象は子供などに限られる。)

上手：ある物事がよくできること。↔「下手」

ねえ：相手に同意を求めているというよりも「ねえ、お姉さん、ピアノ代わって」の意味で用いられている。

映像 ⇒ 楽譜 叱る

## ■文法

④2そっちのショートケーキがいいな。

終助詞「な」は、本来、自分の気持ちや判断を確認しようとするひとりごととして使われるが、相手が聞いていることを前提としている場合は、要求表現となる。

④5お姉さんはピアノが上手ですね。

「～は～が～。」文型のひとつで、〈得手、不得手〉を表す。

④6ぼくの方がもっと上手ですよ。

「もっと」は程度副詞。あるもの・ことより、その程度が上か下である意を表す。「～より」という比較対象を前提としているため、この文では「お姉さんより」が省略されている。

## ■留意点

お姉さん：④7で明が自分の姉を「お姉さん」としているのは当然のことであるが、

④5では良子ときょうだい関係でない和夫が明に対して良子のことを「お姉さん」と言っている。この用法は、子供の立場に自分の立場を同一化して言う表現である。日本ではごくふつうに用いられる言い方である。

|    |   |
|----|---|
| IX | 和 夫 ④⑧ ああ、本当にじょうずだ。<br>明 ④⑨ 和夫さんは、ピアノができますか。<br>⑤⑩ 聞きたいな。<br>和 夫 ⑤⑪ ぼくはへたですよ。 |
| X  | せりふなし<br>(和夫、ピアノをひく。それをきいて笑う良子たち。)  |

### ■語彙・表現

ああ：1. 嘆きや悲しみなどの、感動を表す語。→「ああ、こわかった」「ああ、すばらしい」2. 承知したという応答のことば。「この本見てもいいですか」「ああ、どうぞ」。目上の人に対して使うのは失礼。

本当に：たいへん、非常に→ほんとに

映像 ⇒ 笑う

### ■文法

④⑨和夫さんは、ピアノができますか。

能力を表す「～は～ができる」の文型。

⑤⑩聞きたいな。

欲求を表す「動詞(連用形)+たい」の形。→「ぼくはピアノが聞きたい。」終助詞「な」は、④⑨と同様自分の判断・希望などを自分に言いきかせるような場合用いられるが、ここでは相手に対する軽い要求と考えることができる。

⑤⑪僕はへたですよ。

「僕はピアノがへたですよ」。話題となっているのは「ピアノ」で、⑤⑩と同じく省略されている。

### ■留意点

④⑤⑩で同一の人間が同一の相手に丁寧体と普通体を使いわけている点に注意。④⑨は和夫に対する質問で丁寧体を用いている。これに対して⑤⑩は明の自分に向けてひとりごとのように発する言い方である。

# 第9卷 かまくらを あるきます

## — 移動の表現 —

### 目的・構成

#### 1 目的

この映画は、移動を表す基本的な動詞とそうした動詞とともに用いられる助詞を取り上げ、その意味・用法の理解をめざしている。その他、勧誘の表現「～ませんか」「～ましょう」および「見える」「聞こえる」の基本的な意味にもふれる。

#### 2 構成

映画は、観光地鎌倉を舞台にして、そこへ遊びに来た若い男女三人の一日の行動を追って構成されている。

|                     | 文 場 面         | ス ト ー リ ー                                       | 学 習 項 目                                  | カウント |
|---------------------|---------------|---|--|------|
| I<br>①<br>↓<br>⑥    | 鎌倉駅前(朝)       | 吉川と森田が友人の佐藤を待っている。遅れてゆっくり現れる佐藤。                 | 「～から～に乗る」                                |      |
| II<br>⑦<br>↓<br>⑧   | タクシー          | 三人がタクシーに乗る。吉川が地図で行き先を説明する。                      | 「～へ行く」<br>「～で～を降りる」                      |      |
| III<br>⑨<br>↓<br>⑫  | 高徳院清浄泉<br>寺大仏 | 高徳院門前でタクシーを降りて、大仏を見物する。                         | 「～から～に入る」<br>「～から～まで歩く」                  |      |
| IV<br>⑬<br>↓<br>⑮   | 鎌倉の海岸         | 三人は高徳院から海岸まで歩き、浜辺で遊ぶ。                           |  |      |
| V<br>⑯<br>↓<br>⑰    | 江ノ電・稻村<br>ヶ崎駅 | 電車(江ノ電)に乗って鎌倉駅へもどる。                             | 「～で～に乗る」<br>「～へもどる」                      |      |
| VI<br>⑯<br>↓<br>⑯   | 若宮大路          | 鎌倉駅へ戻った三人は、若宮大路を通って八幡宮に向かう。                     | 「～を歩く」「～に出る」<br>「～を通る」                   |      |
| VII<br>⑯<br>↓<br>⑯  | 鶴岡八幡宮         | 八幡宮で、三人はたいこ橋を渡つたり、石段を昇ったりして遊ぶ。                  | 「～を渡る」<br>「～を登る」                         |      |
| VIII<br>⑯<br>↓<br>⑯ | 大臣山(夕方)       | 三人は八幡宮を出て、裏山に登っていく。夕暮れの美しい景色を見て、三人は山を下り、鎌倉駅へ帰る。 | 「～に登る」<br>「日が沈む」<br>「～から～を下りる」<br>「～へ帰る」 |      |

## 学習項目

### 1 主要学習項目

#### 移動の表現

移動表現の中で最も重要と考えられる、出発・到達・通過の表現がここでの学習の中心となる。

##### (1) 移動の起点を示す「を」を伴う移動表現

移動の出発点となる場所を示して、そこから「離れる、去る」という意味を持つ移動表現には次のようなものがある。

- 電車を降りる。      ○席を立つ。
- 家を出る。      ○国を離れる。
- 東京を発つ。

これらは助詞「を」を伴う自動詞で、この映画では次のような文として出てくる。

場面II ⑧あの門の前で、タクシーを降ります。

場面VIII ⑩さあ、こちらから、山を下ります。

(ただし、⑩の文は後に述べる「通過」の意味にもとれる。)

この表現で、助詞「を」は「から」で置きかえられる場合があるが、そのとき、「を」を使った文がある場所から遠ざかって行く様子を言うのに対して、「から」を使った文は、ある場所が有している境界線の外へ出るという意味が強調されると考えられる。(「家を出る。」と「家から出る。」を比較されたい。) また、「学校を卒業する。」や「会社をやめる。」のように、具体的な移動の動作でない場合は「から」を使うことができない。

##### (2) 移動の到達点を示す「に」を伴う移動表現

移動の到達点となる場所を示して、そこに「行き着く」という意味を持つ移動表現には次のようなものがある。

- 電車に乗る。      ○東京に近づく。
- 大阪に着く。      ○西に進む。
- 部屋に入る。

映画の中では次のような文として出てくる。

場面I ⑥あそこから、タクシーに乗りります。

場面III ⑨ここから中に入ります。

場面V ⑯この駅で、電車に乗りります。

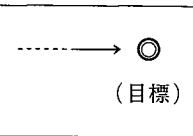
場面VI ⑯そして、八幡宮の前に出ます。

場面VIII ⑯ここから、山に登ります。

場面VIII ⑧日が（西に）沈みますね。

※⑧の( )内の言葉は実際には省略されている。

なお、この表現と近い形に、「～へ行く／来る／帰る／もどる」があるが、「に」が到達すべき場所に力点があるのに対して、「へ」は、ある場所を目標と定めたときのその方向に力点があるといえる。後者の表現はよく「に」を使ってもいい表されるが、微妙なニュアンスの違いは残っていると考えられる。



映画では「(場所) へ [行く、帰る、もどる、……]」の文が次の場面に出てくる。

場面II ⑦最初に、ここへ行きます。

場面V ⑯そして、鎌倉駅へもどります。

場面VIII ⑩そして、鎌倉駅へ帰ります。

### (3) 通過する空間を示す「を」を伴う移動表現

移動が行われる通り道や通過する空間としての場所を「を」で示して、そこを「通り過ぎる」というときの表現には次のようなものがある。

- |           |            |
|-----------|------------|
| ○道を歩く。    | ○門をくぐる。    |
| ○空を飛ぶ。    | ○池のまわりを走る。 |
| ○川を渡る。    | ○家の前を通る。   |
| ○公園を散歩する。 | ○角を曲がる。    |
| ○道を横ぎる。   | ○この道を行く。   |

映画では次の場面に現れる。

場面VI ⑮この道を歩きます。

場面VI ⑯あの鳥居の下を通ります。

場面VII ⑰どちらの橋を渡りますか。

場面VII ⑯わたしは、向こうの橋を渡ります。

場面VII ⑰さあ、この階段を登りましょう。

以上がこの映画で扱われている基本的な表現であるが、このほかに、移動表現全体を一つのまとまった動作と考えて、その動作が行われる場所や、動作の始まる場所、動作が続く範囲を表すいい方も、この映画の重要な学習項目である。

「で」：移動の動作が行われる場所を示す。（存在の場所・位置を示す「に」と対比される。）

場面II ⑧あの門の前で、タクシーを降ります。（～線の部分は一つのまとった動作を示す。以下同様）

場面V ⑯この駅で、電車に乗ります。

「から」：移動の動作が開始される場所を示す。

場面I ⑥あそこから、タクシーに乘ります。

場面III ⑨ここから、中に入ります。

場面VII ⑯ここから、山に登ります。

場面VII さあ、こちらから、山を下ります。

「まで」：移動の動作が終了する場所を示して移動の範囲を限定する。また、「から」とともに用いて、移動の行われる範囲を示す。

場面III ⑫ここから、海岸まで歩きます。

## 2 その他の学習項目

### ① 「見える」「聞こえる」

このふたつの動詞はともに自動詞で、「(対象)が[見える、聞こえる]」という形で、対象となるものが自然と[目、耳]に入ってくる状態を表す。「目が見える」「耳が聞こえる」などのように能力を表すこともあるが、「見られる」「聞ける」のような可能の動詞とは違って、自分の意志とは関係なしに自然にそうなるという自発性の意味を持っていることで区別される。第14、17巻も参照のこと。

この映画では次の場面で使われている。

場面IV ⑬海が見えますよ。

場面IV ⑭向こうに島が見えますね。

場面VII ⑯もうすぐ、お寺の鐘が聞こえますよ。

### ② 「～ましょう」「～ませんか」

勧誘の表現は第13巻で集中的に学習することになるが、ここではその最も基本的な形が取り上げられている。

「～ましょう」は、かなり積極的に相手をうながす表現で、やはり積極的な勧誘を表す「さあ」とともに用いられることが多い。

場面I ⑤さあ、急ぎましょう。

場面VII ⑯さあ、この階段を登りましょう。

「～ませんか」は、「～ましょう」に比べると、かなり消極的な勧誘ということができる、否定形で相手にそうする気持ちがあるかどうか意向を尋ねるいい方である。この言い方を用いれば、相手の意志を尊重することになり、「～ましょう」の押しつけがましさを取り除くことができる。

場面III ⑩佐藤さん、入りませんか。

上記のほか、「～ましょう」には、自分の意志を表す場合や、推量を表す場合もある。

○では、私が行きましょう。(自分の意向)

○明日は、雨が降りましょう(→降るでしょう)。(推量)

## 使用にあたって

### 1 効果的な使い方

移動の表現を映像を通して視覚的に理解させるのは大変効果的な方法であろう。しかし、映像だけを頼りに表現を理解させるのは少々無理がある。教授者は黒板に図で示したりして表現内容の単純化を図るようすべきである。図や絵などの単純化された形での再学習は、映像での思わぬ誤解を避ける有効な一方法でもある。また、この映画の場合、学習内容がかなり単純なだけに、学習項目だけを取り上げて授業を進めては、学習者が退屈するおそれもあるだろう。教授者は、トピックの項で取り上げた名所の説明や地図などを積極的に活用して、興味深い授業作りをしてほしい。

この巻では、移動を表す動詞の正確な意味の把握のほかに、移動動詞と深く関わっている助詞の用いられ方に対して学習者の注意を向けさせるように指導することが肝要である。学習者がひとつひとつの場面で使われている表現を理解し覚えていくことはもちろんあるが、最後に、映画全体の内容を口頭や作文の形でまとめるなどの、動詞と助詞の関係を理解・定着させるような練習が必要である。口頭練習の場合には、教授者が学習者に、「何に乗りましたか」「どこから乗りましたか」「どこで降りましたか」「どこを通りましたか」などと細かく質問して、助詞と移動動詞との関連性を強調するようにしたい。また、「～て」形の導入の後でもう一度この映画を利用して、「～て」形を使っての内容のまとめをすることも、この映画の効果的な使い方であろう。

また、この映画では、佐藤という人物の描かれ方がかなり不自然に思われるかもしれない。この不自然さが登場人物三人の人間関係を分かりにくいものにしているのであるが、授業で佐藤という人物像や三人の関係などを取り上げて話してみるのも、授業に変化を与えるためには役立つと思われる。

### 2 練習帳について

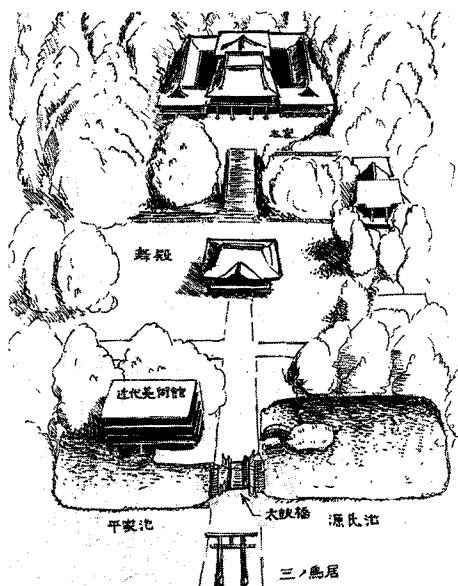
31、32ページの問題は教室で使ってほしい。ビデオ・テープを見ながら、さらに細かい具体的な質問を学習者にしていくことが可能である。会話練習⑩—3についても、「聞こえる」という動詞を使って同じような練習を行うことができる。

### 3 トピック

#### ① 鎌倉

鎌倉は、神奈川県南東部の三浦半島にある市で、史跡や文化財が多く、また風光美をもあわせ有しているため、現在は観光の町として有名である。東京から電車（国鉄横須賀線）で1時間ほどの近距離にあるため、東京からの日帰り客も多く、休日などは多くの人々でぎわう。第22巻の後半も鎌倉が舞台である。

鶴岡八幡宮



歴史的には、12世紀末に源頼朝が平氏を滅ぼして日本最初の武家政権である鎌倉幕府を創設した地として知られる。幕府が1333年に滅亡するまでの約1世紀半、鎌倉は日本の政治文化の中心であり、仏教を中心とする宗教文化が栄えたため、200の寺と42の神社を数えることができる。中でも、映画にも出てくる鶴岡八幡宮と高徳院の大仏は、最も多くの観光客が訪れる場所となっている。

#### ② 高徳院清浄泉寺大仏 (阿弥陀如来坐像)

大仏は鎌倉のシンボル的存在で、ふつう鎌倉の大仏と呼び慣らわれている。映

画の中では、三人が最初にここを訪れる。大仏は高徳院の本尊で、国宝に指定されている。高さ11.31m(台座を含めると13.35m)、顔の長さ2.35m、重さは122.5tある。大きさは奈良の大仏(高さ14.9m)について日本で2番目である。

1246年、僧淨光によって木造のものが最初に造られたが、1252年金銅仏に改鑄する作業が始められたといわれる。元来は大仏殿の建物があったのであるが、二度の大風に倒され、さらに1495年の津波で流失して以来、現在のような露座となっている。映画でも分かるとおり、大仏には右横の入口から中へ入ることができるようになっている。

#### ③ 七里ガ浜

三人が高徳院を出た後、浜辺で遊んだ海岸が七里ガ浜である。鎌倉の南西部、稻村ガ崎から西へ約4kmの、相模(さがみ)湾に面した平坦な海岸。その長さが六町を一里としたときの約七里に相当するので「七里ガ浜」という名前がついている。海岸沿いに江ノ電(正式名称は江ノ島鎌倉観光電鉄)という電車が走っていて、映画の中で三人が鎌倉駅へもどるときに乗る電車がそれである。三人は江ノ

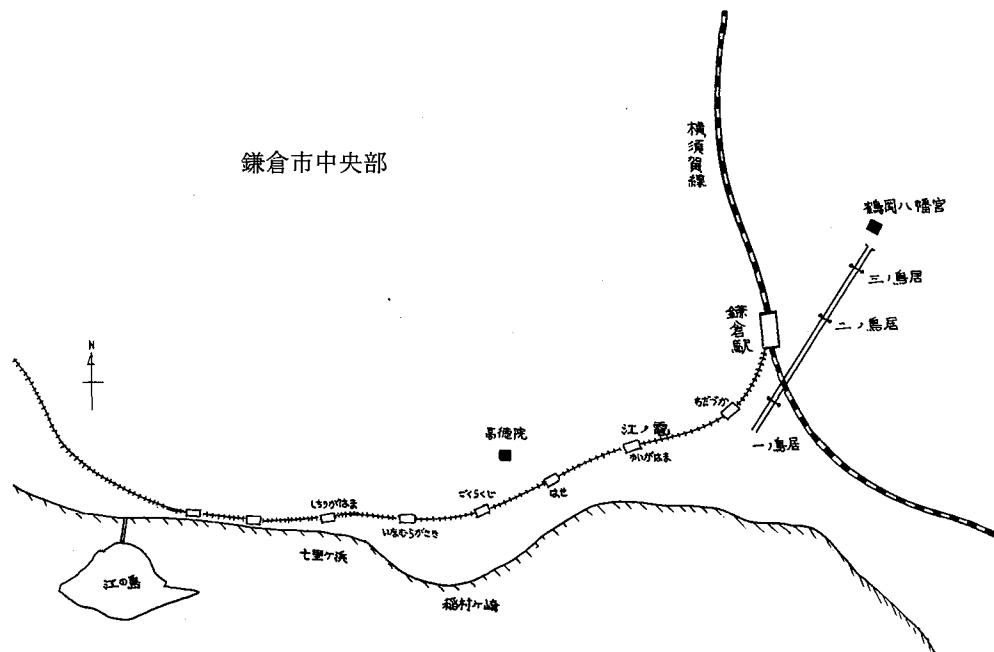
電稻村ガ崎駅から電車に乗る。また、近くに江の島、遠くには富士・箱根・大島をも望むことができ、景勝地をなしている。

#### ④ 鶴岡八幡宮

歴史的にも観光の地としても鎌倉の中心をなすのが、この鶴岡八幡宮である。1063年、源頼義（みなもとのよりよし）が京都の石清水八幡宮の神靈を由比ガ浜近くの鶴岡に迎えたことに始まるが、源頼朝は、鎌倉に幕府を開くと、さらに現在の場所に移して旧名を受けついだ。主祭神は武神として名高い応神天皇で、鎌倉武士の守護神とされた。ほかに、神功（じんぐう）皇后、比売神（ひめがみ）も祭られている。

映画では、江ノ電で鎌倉駅へもどった三人が鶴岡八幡宮の参詣道である若宮大路を歩いてこの八幡宮の前に出てくる。駅からは徒歩で10分ほどである。画面に現われる鳥居は三ノ鳥居と呼ばれるもので、若宮大路にはほかに二ノ鳥居、一ノ鳥居がある。三ノ鳥居をくぐり抜けると、まず両脇に平らな新橋を抱えた丸い太鼓橋があり、太鼓橋をはさむように左右に平家池と源氏池がある。橋を渡って表参道をまっすぐ進むと、三人がハトと遊んだ舞殿があり、その向こうに62段の石段があって、それを登りきると本宮（ほんぐう）がある。本宮は画面には出てこない。

また、本宮の後ろには大臣山と呼ばれる山があり、映画の三人は最後にこの山に登って駅へ帰って行くのである。



## シナリオに沿って

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| I | 吉川 ① 遅いですねー。<br>森田 ② 遅いですね。<br>③ あの人は、いつも遅れます。<br>佐藤 ④ おはようございます。<br>吉川 ⑤ さあ、急ぎましょう。 | 鎌倉駅前<br>朝 |
|---|--|-----------|

### ■語彙・表現

遅い：時間が予定以上にかかっている状態。↔(早い)

いつも：頻度的にそれがふつうであり、習慣的であることを表す。

遅れる：予定の時刻を過ぎること。→「約束の時間に遅れる。」

急ぐ：行動・動作を早くすること。

さあ：相手または自分自身に行動をうながすことば。ここでは前者の意味。

映像 ⇒ 朝 駅前 人々 待つ ゆっくり来る

### ■文法

①遅いですねー。 ②遅いですね。

終助詞「ね」は、イントネーションの変化によって意味が異なる(第3巻参照)。

①②はどちらも下降調のイントネーションで、①は、積極的ではないが、相手に同意を求め、②は、それに答え、同意を示している。

⑤さあ、急ぎましょう。

この「～ましょう」は勧誘。「さあ」とともに用いられて、かなり積極的な勧誘となっている。吉川の、時間の遅れに対して、その遅れを取れどしたいという姿勢が感じられる。勧誘の表現は第13巻で集中的に取りあげられている。

### ■留意点

「あの(人)」という文脈指示の使われ方に注意したい。「あの」は話し手と聞き手がともに認知している場合に使われるものであり、この表現によって、吉川、森田、佐藤の三人は互いに知り合いらしいことがわかる。

### ■生活・文化

④の佐藤のせりふにはないが、待ち合わせの時間に遅れたときはひと言「すみません」と謝るのがふつうである。映画の先を見て行くとわかるのであるが、佐藤はちょっと変わった人物として描かれていて、日本人の平均的の人物像からはかなり隔たりがある。「おはようございます」というあいさつも、親しい友人同志であれば「おはよう」がふつうである。

|    |                                      |      |
|----|--------------------------------------|------|
| I  | 吉川 ⑥ あそこから、タクシーに乘ります。                |      |
| II | ⑦ 最初にここへ行きます。<br>⑧ あの門の前で、タクシーを降ります。 | タクシー |

**■語彙・表現**

最初に：動作・出来事の順序を示す。（はじめに↔最後に、終わりに）

門：建物の外囲いに作られた入口。

前：ここでは、門の通りに面している部分の空間をさしている。また、「～の前」  
という形で、位置を示す。

映像 ⇒ 乗り場 車のドア 地図 指 説明する とまる

**■文法****⑥あそこから、タクシーに乘ります。**

「乗る」は乗り物の外から中への瞬間的移動であり、助詞「に」はその移動の帰着点（乗り物）を示している。「(あそこ)から」は「タクシーに乗る」という行為の開始される場所を示し、具体的にはタクシー乗り場を指示している。

**⑦最初に、ここへ行きます。**

「行く」の目標（地図上の「ここ」）が助詞「へ」で示されているが、「ここに行く」と言うこともできる。ただし、「に」は「到達の場所」を指示する感じが強くなる。

**⑧あの門の前で、タクシーを降ります。**

「降りる」は乗り物の中から外への瞬間的移動を、助詞「を」は移動の出発点（乗り物）を示していて、⑥の「(タクシー)に乗る」と逆の表現である。

「(あの門の前)で」は、「タクシーを降りる」という動作の行われる場所を指示している。「タクシーを降りる」は「タクシーから降りる」と言いかえることができるが、「を」と「から」の違いに注意。

**■留意点**

「あそこ」「ここ」「あの（門）」という指示詞の使い方を、三人の位置関係や、タクシー乗り場、地図、門の場所を映像で確認しながら理解させようとした。「こそあど」の用法については第1、2巻参照。

**■生活・文化**

タクシー乗り場：タクシーは路上で乗り降りするほかに、たいていの駅には「駅前広場」と呼び慣らされている広場があって、そこにあるタクシー乗り場から乗ることができます。駅前広場にはバス乗り場もあるのがふつう。

|     |  |          |
|-----|--|----------|
| III | 吉川 ⑨ ここから、中に入ります。<br>森田 ⑩ 佐藤さん、入りませんか。<br>佐藤 ⑪ いいえ、外にいます。<br>吉川 ⑫ ここから、海岸まで歩きます。 | 高徳院清浄寺大仏 |
|-----|--|----------|

### ■語彙・表現

中：建物や容器などで、外部と区切られた内側の部分。 ⇔(外)

佐藤さん：呼びかけとして使われている。

外：建物の場合、反対語として「内」もある。 ⇔(中)

海岸：陸が海に接している所。浜辺。

映像 ⇒ 大仏 横 入口 小さい ～だけ 道

### ■文法

#### ⑨ここから、中に入ります。

「入る」は建物などの外側から内側へ向かっての移動で、反対は「出る」である。

「(中)に」は移動の目標となる場所を示し、「へ」に置き変えることもできる。

「(ここ)から」は、⑥と同様に、「中に入る」という動作の開始される場所を示していて、具体的には大仏に入るための入り口を指示している。

#### ⑩佐藤さん、入りませんか。

「～ませんか」という否定疑問文の形で「勧誘」の意味を表しているが、⑤の「(さあ)～ましょう」のように積極的ではなく、相手の意志を尊重して意向を尋ねる形である。

#### ⑫ここから、海岸まで歩きます。

「～から～まで」で「歩く」という移動の範囲を示している。「ここ」は自分たちがいる現在地。「歩く」は、足を使ってふつうの速さで前へ進む動作・移動のことであり、反対は「走る」。なお、「歩く」は通路としての場所を通過する移動表現で、その場所は省略されているが、具体的には「道を」である。

⑯の文参照。

### ■留意点

森田の「入りませんか」という誘いに応じない佐藤という人物に注意を向けて、彼がどんな人間であるかを考えさせるのもいいだろう。

|    |  |           |
|----|--|-----------|
| IV | 佐 藤 ⑬ 海が見えますよ。<br>森 田 ⑭ 向こうに島が見えますね。<br>吉 川 ⑮ あれは、江の島です。 | 七里ガ浜      |
| V  | ⑯ この駅で、電車に乘ります。<br>⑰ そして、鎌倉駅へもどります。                      | 江ノ島鎌倉観光電鉄 |

### ■語彙・表現

向こうに：自分との間にあるものを越えた延長上に、の意味。

江の島：鎌倉の海岸から見て、右手の西方にある小さな島。

駅：電車・汽車が発着する所。ここでの駅は、江ノ電の稻村ガ崎駅。鎌倉駅始発で、鎌倉から五つ目。

映像 ⇒ 砂浜 石 投げる 波 線路 走る 横断歩道

### ■文法

⑬海が見えますよ。⑭向こうに島が見えますね。

「～が見える」の形で、「～が」で示される対象（海・島）が自然に視覚上のものとして感じられるという意味を表す。

⑯この駅で、電車に乘ります。

「電車に乗る」という移動の動作が行なわれる場所を「(この駅)で」で示している。⑥および⑧参照

⑰そして、鎌倉駅へもどります。

「そして」は、その前のことの結果として起こる動作・出来事の順序を示す。 「もどる」は移動が開始されはもとの場所へ引き返すという移動の表現であるが、故郷・家などのような終着点としての場所ではなく、一時的な経由地への引き返しを基本的には意味している。これに対して、⑩の「鎌倉駅へ帰る」は、鎌倉での行動がすべて終わったので、終着点としての場所へ引き返すという意味である。「(鎌倉駅)へ」は目標を示す。

### ■留意点

「～が見える」は「～を見る」と比較して理解させるようにしたい。「～を見る」には動作主の意志の働きがある。

「もどる」と「帰る」の違いについても、映像に現れた人物の行動からその対比を探っていくようにしたい。

|    |   |  |
|----|---|--|
| VI | 吉川 ⑯ この道を歩きます。<br>⑯ そして、八幡宮の前に出ます。<br>森田 ⑯ あれが八幡宮ですね。<br>吉川 ⑯ そうです。<br>⑯ あの鳥居の下を通ります。 |  |
|----|---|--|

### ■語彙・表現

道：人や乗り物の通過する場所。商店などのある町中の道は「通り」。

八幡宮：鶴岡八幡宮（「トピック」の項参照）

前：⑧参照。対語として建物の場合は「裏」も使う。（→後ろ、裏）

そうです：相手の判断に対する肯定（はい、いいえ）。

鳥居：神社の入口に建てられている門。

映像 ⇒ 桜 並木道 足 並んで

### ■文法

#### ⑯この道を歩きます。

「歩く」は移動を表す動詞のひとつで、その通過の場所は「(この道)を」で示される。「この道」は現在自分たちがいる道。⑯参照。

#### ⑯そして、八幡宮の前に出ます。

「出る」は、1.「出発点を出る」2.「内から外へ出る」3.「到達地点に出る」といった移動の意味があるが、ここでは3.の意味で、到達点が「(八幡宮の前)に」で示されている。

#### ⑯あれが八幡宮ですね。

話し手の森田は前から「八幡宮」に关心を持っていて、その確認を聞き手に求めた形であり、⑯の「～は～です」のような中立的な文とは異なる。「ね」は確認を求める気持ちであるからイントネーションは上昇調（↗）になる。

#### ⑯あの鳥居の下を通ります。

「通る」は文字どおりある場所を通過する移動表現で、通過場所は「(あの鳥居の下)を」で示されている。

### ■留意点

三人が歩いている道は桜の並木道なのであるが、季節が冬のためにその様子はよくわからない。画面では観光絵地図でそれが示されるが、よく注意して見ないと見すごしてしまいそうである。

|      |   |        |
|------|---|--------|
| VII  | 森 田 ㉓ どちらの橋を渡りますか。<br>佐 藤 ㉔ わたしは向こうの橋を渡ります。<br>吉 川 ㉕ さあ、この階段を登りましょう。<br>佐 藤 ㉖ いや、わたしは下にいます。 | 鶴岡八幡宮  |
| VIII | 吉 川 ㉗ ここから、山に登ります。  | 大臣山、夕方 |

## ■語彙・表現

どちら：二つを比較して選択を問う疑問詞。三つ以上は「どれ、どの～」。

橋：川や道の上にかけられた通路。アクセントに注意 (ハシ、cf. 箸ハシ)。

階段：上下にのぼり降りする段状の通路。

いや：同意しないことを示す。「いいえ」より丁寧な言い方ではない。

映像 ⇒ 丸い 高い 平ら すべる ハト

## ■文法

### ㉓どちらの橋を渡りますか。

「どちら」は二者間の比較や選択を問う形であるが、ここでは映像に現れた、丸い橋と平らな橋の二つを比べていている。「渡る」はある場所を通過して向こう側へ行くという移動表現であり、「(橋)を」は通過場所を示している。

### ㉕さあ、この階段を登りましょう。

「さあ、～ましょう」については、⑤および「その他の学習項目」参照。

「登る」は、高い所への移動であるが、高い所への到達（山に登る、木に登る等）と、高い所へ行くために通路としての場所を通過する場合とがある。ここでは後者の意味で、その通過の場所が「(階段)を」で示されている。

### ㉗ここから、山に登ります。

「～に登る」は、ここでは「登った」結果、到達点に行き着くという意味。

「(山)に」でその到達点が示されているが、具体的には、山の頂上や目的地とされた途中の一地点である。もし、山全体を移動の通過場所と考えれば「山を登る」と言うこともできる。「(ここ)から」は「山に登る」という動作の開始点、具体的には山への登り口を示している。

## ■留意点

相手に選択を問う言い方で、二つの場合と三つ以上の場合とでは表現が異なることに注意を向けさせたい。しかし、単に方向を問う場合には三方向以上でも「どちらへ～」と言うことができる。

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| VIII | 佐 藤 ②⑧ 日が沈みますね。          |
|      | 吉 川 ②⑨ もうすぐ、お寺の鐘が聞こえますよ。 |
|      | ⑩ さあ、こちらから、山を下ります。       |
|      | ⑪ そして、鎌倉駅へ帰ります。          |

### ■語彙・表現

日：太陽。また、太陽から発する光を意味する。

もうすぐ：(間もなく)時間があまりたたないうちに。

お寺：仏教の僧が住み、そこに仏像を安置して修行や仏事が行われる建物。「お」はていねい語化の接頭辞(お米、お金など)。

鐘：金属製で、勤行(ごんぎょう)の合図などのとき、太い木の棒でついて鳴らす。

映像 ⇒ 山道 頂上 夕日 赤い 音 夕方 草

### ■文法

#### ②⑧日が沈みますね。

「沈む」は高い位置にあったものが下のある境界線に到達して見えなくなるという意味で、その到達点は省略されているが、「～に」で示される。「～が沈む」の形で、現在起こりつつある現象の叙述になる。

#### ②⑨もうすぐ、お寺の鐘が聞こえますよ。

「～が聞こえる」は、⑬⑭の「～が見える」と同様の表現で、ある音が自然に耳に入ってくる状態をいう。

#### ⑩さあ、こちらから、山を下ります。

「山を下りる」は、(1)山(出発点)を下りる(離れる)と、(2)山(通過の場所)を下りる(通過して下へ行く)の二つが考えられる。「(こちら)から」はその移動の出発点を示しているが、いくつかの道の一方向をいうのか、一つの場所をいうのか明瞭ではない。

#### ⑪そして、鎌倉駅へ帰ります。

「帰る」は予定の行動が全部終わって帰途に着く意味。「～へ」で目標を示している。⑰の文参照。

### ■生活・文化

映像に現れる夕日の色は決して赤ではなく、黄金色であるが、日本語では、夕日は「赤い」と表現され、「黄色い」とは言わない。

# 第10巻 もみじがとても きれいでした

— です、でした、でしょう —

## 目的・構成

### 1 目的

「です、でした、でしょう」の意味・用法の理解、また、これに対する「だ、だつた」を待遇表現上の観点から理解する基礎を作ることが学習目的である。

### 2 構成

少年の日記をもとに全体が構成されている。早朝、吉田という青年が車で少年と両親を迎えて、皆で修善寺へもみじを見に行く。4時間のドライブで到着後、もみじを見たり、おみやげを買ったりして、帰宅。

|     |             | 文 場 面 | ス ト ー リ ー                           | 学 習 項 目                 | カウント |
|-----|-------------|-------|-------------------------------------|-------------------------|------|
| I   | ①<br>④      | 日 記   | 夜、少年が日記をつけている。同日早朝の回想場面。            | ～くありませんでした<br>～にきました    |      |
| II  | ⑤<br>⑯      | 車の中で  | 吉田さんの運転で修善寺へ向かう。天気、到着時間などについての皆の会話。 | ～でしょう<br>～んですか<br>～でした  |      |
| III | 1<br>⑰<br>⑲ | 修善寺で  | もみじを見ながら、細い道を歩く4人。                  | ～です                     |      |
|     | 2<br>⑲      | 〃     | ベンチにこしかけ、修善寺の地図を見ながら、今と昔を比較して話し合う。  | ～んです<br>～でしょう<br>～んでしょう |      |
|     | 3<br>⑳<br>㉑ | 〃     | みやげ屋で、おみやげを選ぶ。馬の置物の値段をめぐって。         | ～んでしょう<br>～です           |      |
| IV  | 4<br>㉒<br>㉓ | 〃     | 一軒のみやげ屋にもどり、馬の置物を買う。帰宅。             | ～でしょう                   |      |
|     | 5<br>㉔      | 家の前で  | 夜、門前に車がとまり、別れの挨拶。                   | ～かったです                  |      |
| V   | 6<br>㉕      | 日 記   | Iの場面にもどり、少年が日記をつけている。               | ～でした                    |      |

## 学習項目

### 1 主要学習項目

#### ① 「です」「でした」「でしょう」

##### (1) 「です」

「です」は、第一巻以来ずっと続いてきた学習項目である。

名詞文 これは わたしの本です。

形容詞文 この本は 高いです。

形容動詞文 このへやは 静かです。

「です」は、「～は」で表される事柄の実体や属性についてその判断を断定的に表すものである。否定の形は、次のようになる。

名詞文 これは わたしの本では（じゃ）ありません。

形容詞文 この本は 高くありません。／高くないです。

形容動詞文 このへやは 静かでは（じゃ）ありません。

形容詞の否定形は上のように二つの形があり、第3巻では、「～くないです」を、この巻では「～くありません」の形を示している。「じゃありません」は話し言葉でよくみられる表現である。

##### (2) 「でした」

「でした」は過去の事柄に関する肯定的な判断を表している。

名詞文 きのうは いい天気でした。

形容動詞文 修善寺のもみじは きれいでした。

否定形は「では（じゃ）ありませんでした」である。

名詞文 きのうは いい天気では（じゃ）ありませんでした。

形容動詞文 修善寺のもみじは きれいでは（じゃ）ありませんでした。

形容詞の過去形は「でした」「ではありませんでした」をとらずに、次のようになる。

きのうのえいがは おもしろかったです。

〔きのうのえいがは おもしろくありませんでした。〕

〔きのうのえいがは おもしろくなかったです。〕

##### (3) 「でしょう」

「でしょう」は、現時点における話し手自身の不確かな判断や推量を表すのに用いられる。「です」「でした」と違い、動詞にも接続するが、それはこの巻ではとりあげていない。「たぶん」とともによく用いられる。

名詞文 これは たぶん田中さんの本でしょう。

形容詞文 今年の夏は 暑いでしょう。

形容動詞文⑩修善寺のもみじは きれいでしょうね。

「でしょう」は、未来や現在の事柄、あるいは一般的な事実などを推量するだけでなく、過去の事柄やすでに実現していると思われる事柄についての推量にも用いられる。

⑪交通も不便だったでしょう。

否定的な推量の場合は、それぞれ、次のようになる。

これは たぶん田中さんの本ではないでしょう。

今年の夏は 暑くないでしょう。

修善寺のもみじは きれいではないでしょう。

交通も不便ではなかったでしょう。

上昇調のイントネーションをもつ「～でしょう」は、相手に問い合わせ、同調を求めるようとするときに用いられるもので、上記の推量の「でしょう」とは異なる。

⑫ね、安いでしょう。↗

## ② 「です」と「だ」

この巻では、「です」の丁寧体に対する「だ」の普通体を待遇表現上の観点からとりあげている。一般に、初級段階では、「です、でした、ます、ました」などの丁寧体を一貫して学ぶが、ある程度の段階になってくると、待遇表現上、「だ、だった」などの普通体の導入も必要となる。この日本語教育映画基礎篇においても無理のない形で、普通体の会話表現を適宜盛りこんでいる。(第8巻参照)。

家族どうしや親しい間柄では、普通体で会話がなされることが多いが、目上の人に対しては用いないなど、使う上での注意が必要であり、学習者の乱用を防ぐようにしなければならない。この学習段階ではまだ早いと判断した場合は、映画の中で表れる普通体は、理解できる範囲にとどめるとよい。

丁寧体と普通体の対応は「です」には「だ」、「でした」に「だった」、「でしょう」に「だろう」であるが、形容詞文の場合および、疑問文では、「だ」「だった」は用いない。この映画では「だろう」はとりあげていない。

丁寧体とそれに対応する普通体は次のとおりである。

|                            | 丁寧体         | 普通体       |
|----------------------------|-------------|-----------|
| 学<br>生<br>、<br>き<br>れ<br>い | ～です         | → ～だ      |
|                            | ～ではありません    | → ～ではない   |
|                            | ～でした        | → ～だった    |
|                            | ～ではありませんでした | → ～ではなかった |
| 高<br>い                     | 高いです        | → 高い      |
|                            | 高くないです      | → 高くない    |
|                            | 高かったです      | → 高かった    |
|                            | 高くなかったです    | → 高くなかった  |

### ③ 「～のです」

「～です」が、ある事柄の実体や属性についての判断を断定的に表すのに対し、「～のです」は、さらにその判断の根拠や理由を強調した形で断定したものである。会話においては、しばしば「～のです」の形が用いられ、そのより口語的表現は「～んです」となる。この巻では「形容詞+んです」の形だけとりあげた。

⑨吉田さん、修善寺は遠いんですか。

㉕このあたりは、昔は、家が少なかったんですね。

㉙道も、とてもせまかったんですね。

「～の（ん）です」は、また「～の（ん）でしょう」の形もとる。「～の（ん）でしょう」は、ある事柄を根拠にして、説得的に強調して推量した言い方である。

㉖とてもさびしかったんでしょうね。

㉗高いんでしょうね。

「～の（ん）です」については、第12巻でくわしく扱われている。

安いです → 安いのです

安くありません → 安くないのです

安かったです → 安かったのです

安くありませんでした → 安くなかったのです

|                  | 名 詞               | 形容動詞              | 形 容 詞                  |
|------------------|-------------------|-------------------|------------------------|
| で<br>す           | 学生です<br>ではありません   | 静かです<br>ではありません   | 高いです<br>高くありません*1      |
| で<br>し<br>た      | でした<br>ではありませんでした | でした<br>ではありませんでした | 高かったです<br>高くありませんでした*2 |
| で<br>し<br>ょ<br>う | でしょう<br>ではないでしょう  | でしょう<br>ではないでしょう  | 高いでしょう<br>高くないでしょう     |

\*1 高くないです

\*2 高くなかったです } の形もある。

## 2 その他の学習項目

### ① 「(目的語) + に + 行く／来る」

「行く、来る」については、第14巻に詳しいが、この巻では、「行く、来る」の目的を示す表現をとりあげている。目的語は動詞の連用形が用いられる。

動詞(連用形) + に + 行く／来る／帰る

映画の中では、次の文が見られる。

① 11月23日、今日はみんなで修善寺へもみじを見に行きました。

④ 6時ごろ、吉田さんが車で迎えに来ました。

①のように、「～へ」と目的地を示す表現とともに現れることが多い。

ほかにも次のような例文も考えられる。

新宿へ、映画を見に 行きます。

友だちのところへ 遊びに 行きます。

日本へ コンピューター技術を習いに 来ました。

ゆうびんきょくへ はがきを買いに 行きます。

目的語が、動作を示す名詞であってもよい。

デパートへ 買い物に 行きます。

日本へ 経営の勉強に 来ました。

### ② 「ごろ」、「ぐらい」

接尾辞「ごろ」は、だいたいの時刻をいう言い方である。

6時ごろ、10時半ごろ

何時ごろ

昼ごろ、夕方ごろ ×朝ごろ

あしたごろ ×きのうごろ

それに対して「ぐらい」は、だいたいの時間を表すときに用いられるほか、もっと広く、だいたいの数量を表すのに用いられる。

4時間ぐらい

10人ぐらい

20本ぐらい

30枚ぐらい

40キロぐらい

初級段階では、これら「ごろ」と「ぐらい」の用法を確実に定着させる必要がある。

### ③ 月・日の言い方

|            |
|------------|
| 1 いちがつ     |
| 2 にがつ      |
| 3 さんがつ     |
| 4 しがつ      |
| 5 ごがつ      |
| 6 ろくがつ     |
| 7 しちがつ     |
| 8 はちがつ     |
| 9 くがつ      |
| 10 じゅうがつ   |
| 11 じゅういちがつ |
| 12 じゅうにがつ  |
| ? なんがつ     |

|        |            |              |
|--------|------------|--------------|
| 1 ついたち | 11 じゅういちにち | 21 にじゅういちにち  |
| 2 ふつか  | 12 じゅうににち  | 22 にじゅうににち   |
| 3 みっか  | 13 じゅうさんにち | 23 にじゅうさんにち  |
| 4 よっか  | 14 じゅうよっか  | 24 にじゅうよっか   |
| 5 いつか  | 15 じゅうごにち  | 25 にじゅうごにち   |
| 6 むいか  | 16 じゅうろくにち | 26 にじゅうろくにち  |
| 7 なのか  | 17 じゅうしちにち | 27 にじゅうしちにち  |
| 8 ようか  | 18 じゅうはちにち | 28 にじゅうはちにち  |
| 9 ここのか | 19 じゅうくにち  | 29 にじゅうくにち   |
| 10 とおか | 20 はつか     | 30 さんじゅうにち   |
|        |            | 31 さんじゅういちにち |
|        |            | ? なんにち       |

他の助数詞に関しては、第7巻参照。

### ④ 時の表現

| 昨日<br>(きのう)   | 今日<br>(きょう)   | 明日<br>(あした)   | 毎日<br>(まいにち)  |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 先週<br>(せんしゅう) | 今週<br>(こんしゅう) | 来週<br>(らいしゅう) | 毎週<br>(まいしゅう) |
| 先月<br>(せんげつ)  | 今月<br>(こんげつ)  | 来月<br>(らいげつ)  | 毎月<br>(まいつき)  |
| 去年<br>(きょねん)  | 今年<br>(ことし)   | 来年<br>(らいねん)  | 毎年<br>(まいとし)  |

これらの時の表現には、「6時に」「6月に」などとは違って「に」が付かない。

## シナリオに沿って

|   |  |       |
|---|--|-------|
| I | <p>少年 ① 11月23日、今日は、みんなで、修善寺へもみじを見に行きました。</p> <p>② 朝、早くきました。</p> <p>③ 外は、まだ明るくありませんでした。</p> <p>④ 6時ごろ、吉田さんが車で迎えにきました。</p> | 日記(1) |
|---|--|-------|

### ■語彙・表現

もみじ：晩秋に、木の葉が赤や黄色に色づくこと。またその色づいた木の葉  
外：↔中、うち、「家の外」「部屋の外」

明るい：十分に光がさしている様子。「明るい部屋」↔暗い

迎える：→出迎える。迎えに来る→取りに来る

映像 ⇒ 男の子 日記 ねむい

### ■文法

①11月23日、今日は、みんなで修善寺へもみじを見に行きました。

「もみじを見に」は、「修善寺へ行きました」の目的を表している。

②朝、早くきました。

「早く」は、「早い」の連用形で「きました」を修飾する副詞用法。

③外は、まだ明るくありませんでした。

形容詞文「明るいです」の否定形は、「明るくありません」と「明るくないです」がある。その過去の形は、③のような言い方のほかに「明るくなかったです」もある。

④6時ごろ、吉田さんが車で迎えにきました。

「ごろ」は大体の時間をいう。「迎えに」は「来ました」の目的語。

### ■留意点

第7巻の助数詞について、この巻では、月日の言い方が取り上げられている。

十分に言えるようによく練習するとよい。

### ■生活・文化

日記：年月日、天候、そしてその日の出来事の要約や、印象的なことを書く。一般には、「～だ、～だった」で書くが、少年であるため、まだ「です、ます体」で書いているようだ。

|    |   |     |
|----|---|-----|
| II | 吉田 ⑤ 今日は、いいお天気ですね。<br>母 ⑥ 本当に、いいお天気ですね。<br>⑦ 修善寺も、たぶん、いいお天気でしょうね。<br>吉田 ⑧ そうでしょうね。<br>少年 ⑨ 吉田さん、修善寺は、遠いんですか。<br>⑩ いいえ、そんなに遠くありませんよ。 | 車の中 |
|----|---|-----|

## ■語彙・表現

修善寺：「もみじを見に行く」、今日の目的地。P.73「生活・文化」、参照。

たぶん：不確かな断定、推量→「たぶん～でしょう」

そんなに：あまり、たいして、それほど→「そんなに～ない」「このテストはそんなにむずかしくないです」

映像 ⇒ 地図 運転

## ■文法

⑤今日は、いいお天気ですね。 ⑥本当にいいお天気ですね。

現在、自分自身が体験していることの表現。「いい天気だね」と言わなかつたのは、両者にあらためての気持ちがあるからである。

⑦修善寺も、たぶん、いいお天気でしょうね。

推量表現。話者は現在体験している「いいお天気」から、「修善寺も、たぶん、いいお天気でしょうね」と推量しているが、客観的根拠があるわけではないので「～でしょう」となる。

## ■留意点

「～です」「～でしょう」の違いがはっきりでている部分なので、その違いを映像を活用して説明できる。話者がその時点で体験しているので「～です」、修善寺の天気は体験できずに、また、ラジオや新聞から得た情報もなく、自分の直感で推量しているので「～でしょう」と言っている。このことを学習者に説明する、または説明させるのに使える部分である。「～んですか」も同じく映像を活用して学習できる。

## ■生活・文化

吉田さん：吉田さんとこの家族との関係は、丁寧な言葉使いから判断すると、他人であるようだ。「父」の会社の人か、家族の知り合い、あるいは遠縁の者であろう。ふつうの親戚であるなら、少年は「おじさん」と呼ぶであろうし、両親は年下の彼を姓ではなく、名前で呼ぶであろう。

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| II | 少年 ⑪ 吉田さん、修善寺には、何時ごろ着きますか。    |
|    | 吉田 ⑫ そうですね、向こうには、10時半ごろ着きますよ。 |
|    | 父 ⑬ うん、そうすると車で4時間ぐらいですね。      |
|    | 母 ⑭ 修善寺のもみじは、きれいでしょうね。        |
|    | 吉田 ⑮ さあ、着きました。                |
|    | 少年 ⑯ ああ、ちょうど4時間でしたね。          |

## ■語彙・表現

ごろ：大体の時刻を言う。何時ごろ？→10時半ごろ、いつごろ？→昼ごろ  
 むこう：「あそこ」「あちら」が「こそあど」の体系の一部を占めるのに対し、「向  
 こう」は話者に相対する方向、人、所である。ここでは、目的地。「向こう  
 から言ってきた話」「顔を向こうに向ける」「山の向こうに小さい村がある」  
 などの用法がある。

そうすると：他者から与えられた情報をもとに、自分が判断をくだすときの表現。

ぐらい：大体の数量をいう。「4時間ぐらい」「10人ぐらい」「1キロぐらい」

映像 ⇒ 腕時計 もみじ 車 止まる

## ■文法

⑭修善寺のもみじはきれいでしょうね。

これも、⑦と同様に、話者の直感で推量している表現。

⑯ああ、ちょうど4時間でしたね。

⑫の「10時半ごろ着きますよ」をもとに体験としての過去「～でした」である。⑬では超時的、恒時的に言って「4時間ぐらいですね」と言っている。

⑯の「です、でした」は「かかります、かかりました」と言いかえ可能である。

## ■留意点

⑬の恒時的に言う「4時間ぐらいです」と、⑯でそれを体験した「4時間でした」の違いを、学習者に理解させるとよい。⑬の「そうすると」の使い方を用例とともに理解させたい。また、朝、何時に家を出発したかを質問し、「4時間  
 ぐらいです」の「～です」に「かかる」の意味があることを理解させることができる。

## ■生活・文化

修善寺：伊豆半島にある温泉地の一つ。東京から新幹線で三島下車、伊豆箱根鉄道で修善寺へ。東京発の直通急行もある。車では東名高速で沼津I・Cへ、そこから国道136号で25キロ。この地は1200年ほど前に弘法大師が発見の伝説あり、また源氏興亡の舞台。

## 第10巻 もみじが とても きれいでした

|          |     |                  |          |  |
|----------|-----|------------------|----------|--|
| III<br>1 | 母   | ⑯ きれいですね。        | 修善寺、もみじ林 |  |
|          | 父   | ⑰ うん、すばらしいね。     |          |  |
|          |     | ⑲ きれいなもみじですね。    |          |  |
|          | 吉 田 | ⑳ ええ、今が一番きれいですね。 |          |  |
|          | 母   | ㉑ いい色ですね。        |          |  |

### ■ 語彙・表現

すばらしい：「美しい」「立派」などを含んだ総合的な賛辞。

映像 ⇒ 紅葉 もみじ見物 もみじ林

### ■ 文法

⑯ きれいですね。

現在、体験しているので「～です」と言っている。⑭の「きれいでしょうね」と対比させると、違いがよくわかる。また、「もみじ」というのはきれいなものだ」という恒時的意味の「きれいです」とも対比させることができる。

⑰ うん、すばらしいね。 ⑲ きれいなもみじですね。

⑯は妻である「母」に対して言っているので、「～ですね」と言わず、ふつう体で言っている。⑰は他人である吉田さんに向かって言っているので、「きれいなもみじですね」と「～です」で言っている。

⑳ ええ、今が一番きれいですね。

「～は～が～」の文型である。→「もみじは今が一番きれいです」「京都は秋がいい」。(第8巻参照)

### ■ 留意点

⑯「きれいですね」は、⑭「きれいでしょうね」が実現され、現在、体験している表現なので、なぜ、⑯で「～です」と言い、⑭で「～でしょう」と言ったか映像を活用して学習することができる。また、⑯⑰のふつう体と「～です」体の違いを学習できる。この場面で発話者の対人関係をかえて、普通体と「～です」体の使い分けを練習することもできる。

### ■ 生活・文化

もみじ：本来は、秋に草木の葉が赤や黄に変わることをさすが、楓の木、楓の葉の名前にもなっている。春の花見と同様、秋にもみじを見に行く人は多い。もみじ前線は北から始まり、10月中旬から11月下旬にごろかけて南下する。

|               |  |        |
|---------------|--|--------|
| III<br>—<br>2 | <p>少年 ㉒ これは、昔の修善寺の地図ですね。</p> <p>父 ㉓ うん。</p> <p>㉔ えーと、ここは、このあたりだね。</p> <p>少年 ㉕ このあたりは、昔は、家が少なかったんですね。</p> <p>㉖ とても寂しかったんでしょうね。</p> <p>吉田 ㉗ そうでしょうね。</p> <p>㉘ 今は、にぎやかだね。</p> | 修善寺、公園 |
|---------------|--|--------|

## ■語彙・表現

昔：ずっと以前。↔今

このあたり：話し手のいる場所とその周辺のだいたいの所。

寂しい：人の数や家などの数が少ない様子。↔にぎやか→「寂しい道」。ほかに、相手になってくれる人がいなくて、悲しくなる様子。「一人ぼっちで寂しい。」

## ■文法

㉕このあたりは、昔は、家が少なかったんですね。

少年は、昔の地図をもとに「家が少なかった」という説明をしているので、「～んです」と言っている。次ページの㉙も「～んです」を用いて、「道も狭かった」を説明している。

㉖とても寂しかったんでしょうね。

母もその地図をもとに「寂しかった」という説明をしている。㉕では地図に家が少ないとから「～です」と判定しているが、㉖では「寂しかった」だろうと推量し、「～でしょう」となっている。

## ■留意点

㉓「うん」は、少年に向かって返事をしているので、「はい」「ええ」になっていない。㉔、㉘も少年に対して言っているので、「だ」体になっている。発話者の対人関係を交換して練習できる。

㉖～㉙にかけては、ある物の過去と現在のありようについて映像で対比して描かれている。応用して、自分が体験したときを想起していいう形容詞、形容動詞の使い方を、学習できる部分である。また、次ページの㉙に「今は、不便ではありません」「今は便利です」が続くことも学習させたい。

|          |  |              |
|----------|--|--------------|
| III<br>2 | 少年 ②9 道も、とても狭かったんですね。<br>吉田 ③0 今は、ずいぶん広になりましたね。<br>③1 交通も、不便だったでしょうね。  |              |
| III<br>3 | 母 ③2 これは、珍らしいですね。<br>③3 高いんでしょうね。<br>店員A ③4 いいえ、奥さん、これは、安くてい<br>い品ですよ。 | 修善寺<br>おみやげ屋 |

## ■ 語彙・表現

狭い：1.面積が小さいこと。→「狭い家」「狭い所」。2.幅が小さいこと。→「狭い道」「狭い門」↔(広い)

不便：形容動詞。便利ではないこと。あることをするのに都合よくできていない状態をいう。↔(便利)

交通：道や空、海などを人や車、船、飛行機などが往き来すること。

珍しい：希少価値のあるもの、例が少ないものを言う。→「珍しい人形」

品：物、品物。

## ■ 文法

③0ずいぶん広くなりましたね。

形容詞の「～く」形（連用形）+「なる」で変化を表す。第15巻参照。

③1交通も、不便だったでしょうね。

「交通が便利(不便)です」。「不便だった」ことを推量して、「～でしょうね」と言っている。

③3高いんでしょうね。

③2の「珍らしい」から、「高いんでしょうね」と推量している。③3は自分の判断が不確かな場合に、相手に返答を求める表現である。

③4いいえ、奥さん、これは、安くいい品ですよ。

「安くいい」は、形容詞が二つ並んでいる形。前の形容詞は「～く(て)」となる。→「高くて悪い品」

## ■ 留意点

③0を利用して会話の練習ができる。たとえば、「外は寒いんでしょうね。」「いいえ、寒くないですよ。」「ええ、とても寒いですよ。」などである。

|          |  |     |
|----------|--|-----|
| III<br>3 | 少年 ⑬ あっ、馬だ。<br>⑭ ぼく、あの馬がほしいな。<br>父 ⑮ あれは、高いよ。<br>店員A ⑯ いいえ、高くないですよ。<br>⑰ ほかの店では、もっと高いですよ。<br>⑱ これ、どうです？<br>母 ⑲ あちらのお店の方が、安かったですね。<br>吉田 ⑳ そうですね。 |     |
| III<br>4 | 母 ㉑ ね、安いでしょう。  | 修善寺 |

## ■語彙・表現

ほか：該当しているもの以外の物、人、所、時など。

## ■文法

⑬あっ、馬だ。

だれかに言うというより、思わず自分に向かって言っている発話なので、「だ」体になっている。続く⑭、⑮は、親子の会話なので普通体になっている。

⑯これ、どうです？

店員が店の商品をすすめるときに使う表現。丁寧にいうと、「これは、いかが（どう）ですか。」となる。

⑲あちらのお店の方が、安かったですね。

「安かった」は、㉓「少なかった」、㉔「寂しかった」、㉕「狭かった」の用法と異なり少し前に体験したことを言っている。それは、後の㉑「ね、安いでしょう」で確認される。

㉑ね、安いでしょう。

この「～でしょう」は、相手に同意を求める表現である。

## ■留意点

㉑の体験を述べる形容詞の過去の用法を用いて練習ができる。㉑の「安かった」は、馬の置き物の値段は今も安いのであるが、少し前に体験したことを言っているので、「安かった」となっている。

## ■生活・文化

お土産：1.旅先で自分の思い出のために買う物。その土地独特的物を買う場合が多い。2.旅先、外出先から、行かなかった人に買って帰る物。3.人の家へ行くとき、持っていく贈り物。

|          |     |                                |         |
|----------|-----|--------------------------------|---------|
| III<br>4 | 父   | ④ そうだね。<br>⑤ さっきの店は、安くなかつたですね。 | 別のおみやげ屋 |
|          | 店員B | ⑥ いらっしゃいませ。                    |         |
|          | 母   | ⑦ これをください。                     |         |
|          | 店員B | ⑧ はい、かしこまりました。                 |         |
|          |     | ⑨ お待たせしました。                    |         |
|          |     | ⑩ ありがとうございました。                 |         |
|          | 父   | ⑪ さあ、そろそろ帰りましょう。               |         |
| IV       | 父   | ⑫ 遅くまでありがとうございました。             | 家の前     |
|          | 母   | ⑬ ありがとうございました。                 |         |

### ■語彙・表現

かしこまりました：→(承知しました)相手に対し丁寧な気持ちを表し、命令や頼みなどを聞き入れるときに言う。

お待たせしました：(→おまちどうさま)

そろそろ：ある事にとって、ちょうどよいときになり始めた様子。→「そろそろ行きましょう。」

### ■文法

④ さっきの店は、安くなかつたですね。

体験を述べる形容詞の過去否定形である。現在も「安くない」のであるが、少し前に体験したことを探して「安くなかつた」と言っている。

⑥～⑩

買い物の場面での常套的表現である。

### ■留意点

別れのあいさつが映像化されているので、学習者間で役割を決め、実際に劇として行動してみるとよい。特に心をこめて礼を言うとき、「おそらくまで」と「ありがとうございました」の前に、お礼の理由を付けると、心のこもった表現になる。「朝早く／寒いのに／忙しいのに／高いのに／いろいろ／わざわざ／ご親切に／ありがとうございました」など。「今日はとても楽しかったですね」の「楽しかった」を「よかったです／きれいでした／おもしろかったです／おいしかった」などに変えて練習してほしい。

|    |     |   |                |                  |           |        |
|----|-----|---|----------------|------------------|-----------|--------|
| IV | 吉 田 | ⑤④ 今日は、とても楽しかったですね。<br>⑤⑤ 楽しかったですね。<br>⑤⑥ じゃあ、失礼します。<br>⑤⑦ さようなら。<br>父・少年 | ⑤⑧ さようなら。<br>母 | ⑤⑨ さようなら。<br>少 年 | ⑤⑩ さようなら。 |        |
|    | 少 年 | ⑥① 修善寺のもみじは、とてもきれいでした。<br>⑥② 天気もよくて、楽しい一日でした。                             |                |                  |           |        |
|    |     |   |                |                  |           |        |
|    |     |   |                |                  |           |        |
|    |     |   |                |                  |           |        |
|    |     |   |                |                  |           |        |
| V  |     |   |                |                  |           | 日記 (2) |

### ■語彙・表現

楽しい：ある環境、場面、状況に直接身を置いたときに感じる気持ち、その状態。

→「楽しい旅行」「旅行は楽しい」。→「うれしい」：ある出来事により引き起こされた幸せな気持ち。→「うれしいニュース」

失礼します：ここでは、別れのあいさつ。「じゃあ」を伴って言われていることに注意。

### ■文法

⑤④今日は、とても楽しかったですね。 ⑤⑤楽しかったですね。

一日の行動をふりかえり、過去の形で表したもの。

⑥①修善寺のもみじは、とてもきれいでした。

自分の体験を想起していう「～でした」。

⑥②天気もよくて、楽しい一日でした。

これも体験の想起である。「天気もよい」と「楽しい」を接続させるときは、「～く(て)」を用いる。

### ■留意点

⑥②のように、想起しか示さない表現で、「～でした」の用法を理解させ、恒時、想起両方を示す表現で、その使い分けで練習するとよい。日記文であるので「だ」体に書き直せることもできる。

### ■生活・文化

失礼します：目上の人やあらたまつた場所でのあいさつ。家に上がるとき、部屋に入るとき、椅子に座るとき、人の物を借りたり、見たりするときなどの言葉。訪問先を出るとき、別れるときも「さようなら」のかわりに「失礼します」という。このことからも「吉田さん」と家族の関係が親しくても、ごく身近かな友人、親戚でないことがわかる。

## 『日本語教育映画 基礎編』 作成関係者

(指導・助言) 日本語教育映画等企画協議会委員 (所属は在任当時のもの)

池 尾 ス ミ (米加十一大学連合日本研究センター)

石 田 敏 子 (国際基督教大学)

今 田 滋 子 (国際基督教大学)

木 村 宗 男 (日本語教育学会)

工 藤 浩 (国立国語研究所)

窪 田 富 男 (東京外国语大学)

斎 藤 修 一 (慶應義塾大学国際センター)

佐久間 勝 彦 (東京外国语大学)

杉 戸 清 樹 (国立国語研究所)

(企画) 国立国語研究所日本語教育センター関係者 (在任当時関係者も含む)

野元菊雄 南 不二男 川瀬生郎 日向茂男 田中 望

清田 潤 中道真木男 林 大 武田 祈 水谷 修

(制作) 日本シネセル株式会社

この『教師用マニュアル』の企画・校閲・編集は国立国語研究所日本語教育センター日本語教育指導普及部教材開発室の日向茂男、清田潤が担当した。全巻にわたっての企画・校閲には中野泰子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)、野村美知子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)の両氏に多大な協力を得た。また印道緑、清地恵美子、戸川さやかの各氏に企画時の補助をお願いした。

このユニット2の原案執筆・検討には中野泰子、中込明子、小林幸江、佐藤政光、ダバロス田中都紀代の各氏に助力を仰いだ。

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル

ユニット2

1984年11月15日 発行

企画・編集 国立国語研究所

・発行 〒115 東京都北区西が丘3~9~14 電話(30)900-3111

印刷 日本シネセル株式会社

〒107 東京都港区赤坂1~9~15 電話(03)582-2691~4

日本語教育映画 基礎編

教師用マニュアルユニット 1 (第1巻～5巻)  
2 (" 6 ~ 10 ")  
3 (" 11 ~ 15 ")  
4 (" 16 ~ 20 ")  
5 (" 21 ~ 25 ")  
6 (" 26 ~ 30 ")

国立国語研究所 1974.11.15.